

授業科目名： 日本史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 久世 奈欧
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 日本の歴史の流れを理解し、各時代の特徴を把握することができる。			
授業の概要 日本の各時代の資料を読解しながら、当該期の社会や文化について学ぶ。また、京都という土地柄を活かし、実際に歴史の舞台となった場所を訪れる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の進め方、参考文献、歴史理解と私たち） 第2回：日本神話からみる古代日本・古代日本と諸外国 第3回：武家の台頭と京都・太平記にみる南北朝時代とその受容 第4回：中近世移行期の政治動向と文化 第5回：近世の人々の暮らし 第6回：近世近代移行期の京都 第7回：近代日本と信仰・近現代の歴史認識 第8回：フィールドワーク・全体のまとめ 定期試験			
テキスト なし。毎回授業資料を配布。			
参考書・参考資料等 授業内で都度指示する。			
学生に対する評価 小レポート、定期試験の完成度により評価する。			

授業科目名： 外国史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大村 一真
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 古代から現代までの外国史に関する基礎的な用語と一般的な知識を理解する。			
授業の概要 この授業では、世界の主要な地域の歴史を概観し、歴史学的な視点を養うことを目指します。古代文明から現代社会まで、多様な文化や社会の形成過程を比較分析します。また、歴史認識の多様性や歴史学の面白さを理解します。さらに、歴史教育の現場で求められる歴史観や、現代社会における歴史の役割について考察することで、将来、教員を目指す学生にとって有益な知識とスキルを習得します。世界の歴史を学ぶことで、国際社会における諸問題を多角的に捉え、グローバルな視点を持つ人材育成を目指します。			
授業計画 第1回目 古代・中世のヨーロッパ 第2回目 古代・中世の中東 第3回目 古代・中世のインド 第4回目 古代・中世の東アジア 第5回目 近代：大航海時代から宗教改革まで 第6回目 革命とその伝播 第7回目 帝国主義の成立 第8回目 総力戦から現代まで			
定期試験			
テキスト テキストは授業中に紹介する。			
参考書・参考資料等 参考文献は授業中に紹介する。			
学生に対する評価 定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）			

授業科目名：社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 光則
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小・中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）</p> <p>ESD(持続可能な開発のための教育) の視点で小学校及び中学校社会科の教育内容を学ぶ</p> <p>（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校及び中学校社会科の目標と内容を理解し、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」についての基礎的な知識や資料活用の技能を身に付ける 2. 社会的な事象に関心をもち、多面的・多角的に考察し、公正に判断できる能力と態度を養う 3. 小学校及び中学校学習指導要領の構成と内容を理解する 			
<p>授業の概要</p> <p>小学校及び中学校社会科の目標を理解し、その学習内容である「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」について、小学校及び中学校学習指導要領の内容を踏まえながら体系的に学習する。特に、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を一貫した軸とし、過去から現代に至る社会の成り立ちや、現代社会が直面する諸課題の構造を専門的な見地から掘り下げる。また、この授業を通して、社会的な事象を多面的・多角的に捉え、根拠に基づいて論理的に考察・判断する専門的な能力を養うことを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーションと小学校及び中学校社会科のイメージ</p> <p>第2回：小学校及び中学校社会科の歴史</p> <p>第3回：小学校及び中学校社会科の課題</p> <p>第4回：地理学習の内容として地域の課題について考える①（自然災害と防災まちづくり）</p> <p>第5回：地理学習の内容として地域の課題について考える②（少子高齢化と地域活性化）</p> <p>第6回：地理学習の内容として地球規模の課題について考える ①（生活文化の多様性と国際理解）</p> <p>第7回：地理学習の内容として地球規模の課題について考える ②（越境汚染と国際協力）</p> <p>第8回：公民学習の内容として豊かな暮らし（市場経済）について考える①</p> <p>第9回：公民学習の内容として民主主義（政治制度）について考える②</p> <p>第10回：小中学校の歴史学習の内容としての文化財①（日本と世界の埋蔵文化財）</p>			

- 第11回：小中学校の歴史学習の内容としての文化財②（日本と世界の史跡）
第12回：小中学校の歴史学習の内容としての文化財③（日本と世界の重要文化財）
第13回：世界文化遺産と持続可能な社会
第14回：世界文化遺産学習とSDGs
第15回：「社会」の全体的総括

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社

参考書・参考資料等

適宜紹介。

学生に対する評価

◆成績評価方法

- ・授業への取り組み状況（50%）
- ・最終課題レポート（50%）

◆成績評価基準

授業への取り組み状況・・・授業中の積極的な発言，グループ活動への貢献，小レポートの内容により評価する。

最終課題レポート・・・社会科教育内容と教材研究に関するレポートの内容と構成の適切さにより評価する。

授業科目名： 京都の歴史と文化	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 朝比奈 英夫、澤田 裕子
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>京都の歴史を日本史の流れと関連づけて理解し、実地探訪を含めて、体系的に学ぶ。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の歴史に関する基礎的な知識を修得している 2. 京都が日本の歴史でどのような位置を占めるかについて認識を深め、現代の社会や文化が成り立つ基盤を理解している 3. 京都と地域との関係を理解し、時代によって変遷する関係の多様性を理解している 			
<p>授業の概要</p> <p>ながらく政治・経済・文化の中心であった京都では、多様な文化が花開いた。本年度は、文学、歴史の側面から京都について論ずる。普段接することのない視角からみた京都の魅力について再発見してもらおうとともに、同じ京都を素材としても学問分野によって研究視角や研究方法が異なることに留意し、学問の面白さや多様性に触れて欲しい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス（担当：朝比奈）</p> <p>第2回 平安京遷都以前の京都盆地（地形、渡来人）（担当：澤田）</p> <p>第3回 平安京の成り立ち（律令制、都城）（担当：澤田）</p> <p>第4回 平安京の展開（右京の衰退、左京の繁栄）（担当：澤田）</p> <p>第5回 平安京から中世都市京都へ（京内再開発、京外都市域の成立）（担当：澤田）</p> <p>第6回 鎌倉時代の京都（東国武家政権時代の京都）（担当：澤田）</p> <p>第7回 室町時代の京都（在京武家政権、町衆、戦乱）（担当：澤田）</p> <p>第8回 織豊政権期の京都（秀吉の京都大改造）（担当：澤田）</p> <p>第9回 第2回～第8回の復習テスト 京都の都市空間 京都文化博物館見学（学外実習）の予習（担当：朝比奈）</p> <p>第10回 導入・洛西地域と中路氏・江戸時代の百人一首（担当：朝比奈）</p> <p>第11回 中路氏旧蔵『百人一首解』が物語る教養（担当：朝比奈）</p> <p>第12回 中路氏の親族、細野家と「文人」細野長方について（担当：朝比奈）</p> <p>第13回 江戸時代の文人たちの交流（担当：朝比奈）</p> <p>第14回 第10回～第13回のまとめと振り返り（担当：朝比奈）</p>			

第15回 評価レポート作成 (担当：朝比奈)**テキスト**

授業内で資料を配布する。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価**◆成績評価方法**

小テストと振り返りレポートにて実施する。

◆成績評価基準

小テスト 50%

振り返りレポート 50%

授業科目名： 観光地理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平田 眞康
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>（テーマ）日本や世界の具体的な観光地域における、自然環境、経済、社会との関わりについての理解を通して、観光地理学の基礎的な知識と見方・考え方を身につけることを目的とする。また、本科目は、中学校社会科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。</p> <p>（到達目標）観光地理学の基本的な諸概念を理解し、日本や世界の観光地域を捉える自然地理的及び人文地理的な見方・考え方を習得する。教職課程履修者は、学修内容を中学校社会科の教科内容及び教材に関連づけて主体的に探究する。</p>			
授業の概要			
観光地理学の基礎的な知識と見方・考え方の概要を理解した上で、観光地域の分類及び特徴について日本や世界の具体的な観光地域の事例を取り上げ、各観光地域を捉える自然地理的及び人文地理的な見方・考え方を習得することを目的とする。			
授業計画			
第1回：観光地理学の概要			
第2回：観光の定義と歴史			
第3回：観光資源の分類			
第4回：観光資源からみた観光地域①：自然的景観1（世界自然遺産）			
第5回：観光資源からみた観光地域②：自然的景観2（国立公園）			
第6回：観光資源からみた観光地域③：自然的景観3（ジオパーク）			
第7回：観光資源からみた観光地域④：自然的景観4（天然記念物）			
第8回：観光資源からみた観光地域⑤：文化的景観1（世界文化遺産）			
第9回：観光資源からみた観光地域⑥：文化的景観2（歴史的景観、史跡、重要伝統的建造物群）			
第10回：観光資源からみた観光地域⑦：文化的景観3（産業、重要文化的景観）			
第11回：観光資源からみた観光地域⑧：文化的景観4（都市、イベント）			
第12回：観光資源からみた観光地域⑨：複合的景観1（世界複合遺産）			
第13回：観光資源からみた観光地域⑩：複合的景観2（庭園、名勝）			
第14回：SDGsと持続可能な観光地域：エコツーリズム			
第15回：教科書にみる観光地理学と地理教育			

定期試験
テキスト 高校で使った地図帳。
参考書・参考資料等 授業中に紹介。また、適宜資料を配付する。
学生に対する評価 定期試験（60％）、課題（40％）。

授業科目名： 地域産業論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金治 宏
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義は、産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の盛衰メカニズムに関する実践的な思考力を身につけることを目的とする。具体的には、現代産業における地域経済への影響や集積の実態を概説する。産業集積の具体的な集積地域を取り上げながら、内部構造・社会構造を含めて考察する。</p>			
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産業集積の基本的な概念について、説明できる 2. 現実の産業集積にかかる諸現象を把握し、情報を整理できる 3. いかにして持続性のある地域産業の構築が可能になるかを、実例に基づいて理論的に考えられる 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：講義の概要</p> <p>第2回：地域産業活性化の意義</p> <p>第3回：産業はなぜ集積するのか</p> <p>第4回：産業集積の発生と継続</p> <p>第5回：経済立地の理論</p> <p>第6回：コミュニティキャピタル、ソーシャルキャピタル</p> <p>第7回：日本の代表的産業集積：京都</p> <p>第8回：各地域における多様な産業集積</p> <p>第9回：世界の産業集積</p> <p>第10回：都市をめぐる議論</p> <p>第11回：ファミリービジネスと地域社会</p> <p>第12回：地域の制度と文化</p> <p>第13回：アントレプレナーシップと地域社会</p> <p>第14回：今後の地域産業の展望</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

なし

参考書・参考資料等

辻田素子（編）（2023）『長寿ファミリー企業のアントレプレナーシップと地域社会：時代を超える京都ブランド』新評論.

学生に対する評価

定期試験（60％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40％）

授業科目名： 環境防災学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高野 拓樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 地球温暖化、地震、異常気象などの環境問題と災害についての基礎知識を習得し、これらの問題に対する防災対策を理解し、実践的な対応能力を身につけることを目指す。			
授業の概要 本授業では、地球温暖化や異常気象、地震などの環境問題と災害について学ぶ。理論的な知識の習得に加え、実際の防災対策や対応方法についても実践的に学び、総合的な理解を深める。			
授業計画 第1回：環境防災学の概要と重要性 第2回：地球温暖化のメカニズムと影響 第3回：異常気象の原因とその影響 第4回：地震の基礎知識と発生メカニズム 第5回：津波の発生とその影響 第6回：洪水と土砂災害のリスクと対策 第7回：気候変動とその社会的影響 第8回：都市部における防災対策 第9回：自然災害に対する地域コミュニティの役割 第10回：防災計画と避難訓練の重要性 第11回：災害時の情報伝達とコミュニケーション 第12回：災害後の復旧と復興 第13回：環境保護と持続可能な開発 第14回：国際的な防災協力と支援 第15回：環境防災学の未来と課題 定期試験			
テキスト 地球環境クライシスⅡ－持続可能な未来への挑戦－（高野拓樹 著、ムイスリ出版）			
参考書・参考資料等 産官学民コラボレーションによる環境創出（日本環境学会幹事会 編、本の泉社）			
学生に対する評価			

定期試験（60%）、授業毎の理解度チェック（40%）

授業科目名： 法律学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大芝 理穂
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：人々の暮らしと憲法</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権に関する基本的な知識を取得し、解釈の方法や裁判例の読み方を身につけることができるようになる。 ・国や地方の政治が動く仕組みを理解し、自身はその構成員であるということを意識できるようになる。 ・論理的な文章が書けるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>私たちの生活のなかに、法律問題は多く存在しています。とりわけ憲法問題(人権問題や国家権力の作用については、あまり馴染みのない問題のように思われるかもしれませんが、私たちの問題として認識すべき事柄ばかりです。本講義では、憲法に関する判例や現在行われている訴訟、時事ニュースなどを題材にして、これらが私たちの問題であることを認識するということを目標にしています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：身近な憲法・法律問題、国際問題</p> <p>第2回：国民、個人、市民</p> <p>第3回：結婚はしたいときにできるのか（婚姻と平等、特に同性婚について）</p> <p>第4回：憲法に書いていなければ権利ではないのか</p> <p>第5回：思いを強制することは可能か（思想・良心の自由）</p> <p>第6回：宗教と私たち（信教の自由、政教分離）</p> <p>第7回：表現の自由は最大に保障されるべきである</p> <p>第8回：学校と自己決定権（教育を受ける権利、学問の自由）</p> <p>第9回：健康で文化的な最低限度の生活（生存権）</p> <p>第10回：労働と平等（性別、国籍などにおける差別）</p> <p>第11回：罪を裁くとはどういうことか（刑事手続）</p>			

第1 2回：有権者としての私たち（参政権、国会）

第1 3回：内閣や裁判所は何をすることでいいのか

第1 4回：全世界の国民が、平和のうちに生きる権利

第1 5回：授業の振り返り

定期試験

テキスト

参考書・参考資料等の欄を参照。

参考書・参考資料等

参考書：遠藤研一郎『はじめまして、法学 第2版』（ウェッジ、2023年） など法学の入門書。授業中に適宜示す。

参考資料等：授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

試験（50%）、各授業後の小レポート課題（50%）

授業科目名： 政治学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大村 一真
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 政治を身近なものとして捉える。			
授業の概要 本講義は政治学の基本的な考え方や概念を学び、わたしたちの日常生活から政治を考えることを目指します。講義の前半では、政治学における政治に対する理解を知り、後半では、現代社会の様々なイシュー（貧困、ジェンダー、気候変動、etc.）を取り上げます。一般的に、政治学では、議会・選挙・政党を学びますが、この講義では、こうした制度に対する理解を身につけるとともに、現代社会における様々な問題に着目します。国と国との関係、国際社会における諸問題、そしてグローバル化が進む現代社会における国際的な課題なども考えます。			
授業計画 第1回目 政治(学)とは何か 第2回目 議会・政党・選挙 第3回目 政治体制と民主化 第4回目 戦争と安全保障 第5回目 官僚制と地方自治 第6回目 権力と政治 第7回目 メディアと政治 第8回目 前半部分のまとめ 第9回目 社会問題と政治：貧困と格差 第10回目 社会問題と政治：ジェンダー 第11回目 社会問題と政治：ナショナリズムと多文化主義 第12回目 社会問題と政治：気候変動 第13回目 自由主義と民主主義① 第14回目 自由主義と民主主義② 第15回目 後半部分のまとめ 定期試験			

テキスト

テキストは授業中に紹介する。

参考書・参考資料等

参考文献は授業中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）

授業科目名： 地域公共政策	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 風岡 宗人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>自分事としての地域公共政策に向けて～公共政策の理論を学び地域問題への眼差しを養う</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公共政策が決定される立案プロセスを理解している 2. 公共政策の事例や評価方法を理解している 3. 公共政策が地域に与える影響を理解している 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義では、公共政策の形成プロセスの各段階における基本的な理論を学ぶとともに、身近な地域問題を取り上げ、持続可能な地域づくりに向けた解決策を考えます。 ・講義前半は主に政策形成プロセスごとに主な論点や理論を取り上げ、地域問題を捉える眼差しを身につけます。 ・講義後半はいくつかの地域問題を具体的に掘り下げ、分析、提案する力を養います。 			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ①イントロダクション なぜ地域に注目するのか ②公共政策が 対象とする「問題」とはなにか ③公共政策の手段 ④公共政策の決定 ⑤公共政策の評価 ⑥食・農とまちづくり ⑦多文化共生のまちづくり ⑧エネルギーとまちづくり ⑨福祉社会とまちづくり ⑩子どもとまちづくり ⑪環境とまちづくり ⑫地域公共政策デザインワークショップ① 問題を定義し、仮説をつくる ⑬地域公共政策デザインワークショップ② 企画案を考える 			

⑭地域公共政策デザインワークショップ③ 企画共有による改善・レポート執筆

⑮まとめ

テキスト

なし

参考書・参考資料等

- ・『入門公共政策学 - 社会問題を解決する「新しい知」』秋吉貴雄／中公新書
- ・『公共政策学の基礎（第3版）』秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉／有斐閣
- ・『地域政策（第2版）』山崎朗ほか／中央経済社
- ・『対立軸でみる公共政策入門』松田憲忠・三田妃路佳（編）／法律文化社
- ・『SDGsとまちづくり：持続可能な地域と学びづくり』田中治彦・枝廣淳子・久保田 崇（編著）／学文社

学生に対する評価

◆成績評価方法

- ①授業への参加姿勢その他（積極的に学ぶ姿勢・意欲を評価します） 60%
- ②全3回のワークショップをとおして作成した成果物（ワークシート+レポート）の内容で評価します。40%

◆成績評価基準

- ①各回の学習ポイントを理解し、自分の言葉で振り返りができているかどうか。
- ②ワークショップに参加し、公共政策形成プロセスに関する知識を踏まえて問題・課題分析ができているかどうか、論理的に妥当な政策提案が考えられるか、レポートでワークショップの成果がしっかりとまとめられているかどうか。

授業科目名： 宅地と建物	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大島 祥子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不動産に必要な基礎知識である法律、制度について理解している 2. 不動産購入や貸借の際に必要な知識を理解している 3. 不動産のマネジメントの重要性とその事例について理解している 			
<p>授業の概要</p> <p>近年、土地や建物の不動産は、マネジメントが重要になっています。魅力的な暮らしやまちを創造する不動産のプロフェッショナルとなる人材が求められています。一方、不動産は日常生活や不動産の売買、転居の際には不可欠な情報であるにもかかわらず、身近なものでありながら学ぶ機会は多くありません。本科目では、不動産の法律や制度、金融商品や市場など基礎的な内容を中心に学び、さらに近年の不動産事業の傾向について事例を通じて学びます。授業内では、教科書の他に国家資格「宅地建物取引士」の試験問題も教材とします。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の内容と目標、教科書等） 本授業の概要と進め方、教科書、獲得目標を理解する。</p> <p>第2回：土地とすまいの基礎知識 不動産を学ぶ意味、不動産を取り巻く基礎知識を用語、仕組みを中心に学びます。</p> <p>第3回：住まいとまちのマネジメント 不動産や住宅の政策、市場、金融について制度と事例を通じて学びます。</p> <p>第4回：住まいを借りる・購入する 住まいを借りるとき、買うとき、私たちは何を調べ、どう判断したら良いのかを考えます。</p> <p>第5回：不動産の権利について① 購入や相続等で不動産を取得すると、登記をします。登記とは何か、なぜするのか。不動産の権利とは何かについて学びます。</p> <p>第6回：不動産の権利について②（+小テスト） 不動産の権利について、ケーススタディを通じて学びます。これまでの内容に関する小テストを実施します。</p>			

第7回：マンションの歴史と現在

都市部では主要な居住形態であるマンション。マンションの歴史や現在の課題について学びます。

第8回：マンション管理

複数の家族が集住するマンションは、共同で管理します。このための様々なルールについて学びます。

第9回：マンションと暮らし

マンションを取り巻く様々な課題について学び、それを緩和する方法を考えます。

第10回：リノベーション/コンバージョンの事例から学ぶ

築年数を経た建物は修繕する必要があります。元に戻す修繕に加え、新しい機能を備えたリノベーション、用途を変えるコンバージョンなど近年の多様な展開を事例を通じて学びます。

第11回：暮らしを取り巻く法律（+小テスト）

不動産を取り巻く様々な法律について、概要を学びます。これまでの学びに関する小テストを実施します。

第12回：都市計画とまちづくり

私たちの暮らしに密接に関わる都市計画。普段それを意識することは少ないですが、まちづくりを考える上でとても重要です。不動産に関連する都市計画の内容を学びます。

第13回：まちのマネジメント①

より魅力的なまちに育てて行くには何が必要でしょうか。主に住宅地を対象に事例から学びます。

第14回：まちのマネジメント②

近年の大きな課題である空き家問題。なぜ空き家が発生するのか、何が問題何かを学びます。この上で空き家を発生させないための政策、空き家を活用する事例を学び、空き家を活用したまちのマネジメントを考えます。

第15回：まとめ/宅建士試験について

これまでの授業を振り返るとともに、国家資格「宅地建物取引士」の仕事や試験内容について学びます。

定期試験：実施する。

テキスト

「建築のための不動産学」（齊藤広子編著、大島祥子、加藤悠介、関川華、山根聡子 著）市ヶ谷出版社

参考書・参考資料等

授業中に適宜配布もしくはPDFで共有する。

学生に対する評価

定期試験（50%）、授業参加姿勢（30%）、小テスト（10%×2回=20%）

授業科目名： 社会学入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川端 亮
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 「社会学」とはなにをどのように説明する学問なのかを自分の言葉で説明できるようになる			
授業の概要 経済活動を含む社会現象に即して社会学の主要な概念や命題を学びながら、社会学の独自性を理解し、社会的なものを見方を獲得することを目指す。			
授業計画 第1回：ガイダンス 社会学とは何か 第2回：人生は学校で決まるか？ 第3回：親子のかかわりと教育の関係を再考する 第4回：大学進学と奨学金 第5回：現代日本における大学生の就職活動 第6回：高等教育から社会経済活動への移行と不平等 第7回：能力とキャリア 第8回：社会人になるとは？ 第9回：職場を変えるには 第10回：理想のライフコースは実現できるか 第11回：現代社会の経済活動における不平等 第12回：一人暮らしと住まいの現在 第13回：結婚できるとすれば、あなたは結婚しますか？ 第14回：変化する社会のなかの子ども・若者の自殺 第15回：時代とともに変わる高齢者介護 定期試験			
テキスト 『大学生からみるライフコースの社会学』（中西啓喜・萩原久美子・村上あかね編著、ミネル ヴァ書房）			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

定期試験（60％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40％）

授業科目名： 経済学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金治 宏
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>実際の経済現象や時事問題を経済学という視点で、より身近なものとして捉えるための基本を身につける。到達目標は、①経済学の基本的理知識を理解している、②経済学の基礎的な用語・概念を他者に説明できる、③経済に関わる諸問題について、経済学の視点から考えることができるの3つである。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は経済学の基礎的な知識の習得を目的とする。経済の理論や仕組みの基本と応用について、現実社会の動向を踏まえて考察し、理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション：講義の概要 第2回：経済とは何か、経済学はどういった学問か 第3回：現代経済の仕組み 第4回：世界経済発展の軌跡 第5回：現代日本経済の形成 第6回：企業と市場 第7回：国際貿易と外国投資 第8回：現代経済と金融 第9回：労働市場と労働政策 第10回：少子高齢化と社会政策 第11回：社会と財政 第12回：途上国の経済と社会 第13回：環境と経済 第14回：日本経済と最近の政策 第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト			

横浜国立大学経済学部テキスト・プロジェクトチーム（編）『ゼロからはじめる経済入門 -- 経済学への招待 新版』有斐閣.

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）

授業科目名： 社会とジェンダー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古瀬 悠
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【テーマ】 ジェンダーの基本的知識と人権としての性を学ぶ</p> <p>【到達目標】</p> <p>①ジェンダー論の基本的な用語と理論を習得すること</p> <p>②ジェンダー平等と性の多様性を基本的権利の一つとして捉えることができるようになること</p> <p>③日常生活の様々な場面や社会の諸問題について、ジェンダーの視点から思考できるようになること</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ジェンダー論の基本について身近な事例をもとに考える。また、女性のからだ特有のことについて科学的に学ぶことで自分自身の体のケアに役立てるほか、ジェンダー論との繋がりを考察する。現代社会はジェンダーとどのように関わっているかを知り、包括的性教育についても学ぶことで、自他の心とからだ、権利を尊重できる人物像を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 インTRODクシヨN：ジェンダーを学ぶとはなにか（本講義の概要と成績評価についても説明する）</p> <p>第2回 私たちとジェンダー：ジェンダー規範とジェンダーバイアス</p> <p>第3回 「性って80億あんねん」：セックス、ジェンダー、セクシュアリティ</p> <p>第4回 学校とジェンダー：隠れたカリキュラムと進路形成</p> <p>第5回 働くこととジェンダー：性別職業分離とハラスメント</p> <p>第6回 恋愛や性行動とジェンダー：恋愛至上主義</p> <p>第7回 女性のからだ①月経・妊娠・出産</p> <p>第8回 女性のからだ②避妊・中絶・性感染症</p> <p>第9回 女性のからだ③性的同意と性暴力・デートDV</p> <p>第10回 母娘関係とジェンダー：愛情と規範</p>			

第11回 結婚制度と家族とジェンダー：戦後家族モデルと性別役割分業

第12回 フェミニズムとジェンダー：性と生殖の権利

第13回 性の商品化とジェンダー：搾取の構造

第14回 よりよい人間関係のために①バウンダリー

第15回 よりよい人間関係のために②包括的性教育の実践

基本的に講義形式で進めるが、適宜、個人発表やグループディスカッション等を行う。

定期試験：なし。ただし最終レポートを課す。

テキスト

特定のテキストは使用せず、適宜紹介する。毎回の講義では講義資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・加藤秀一（2017）『はじめてのジェンダー論』有斐閣
 - ・落合恵美子（2019）『21世紀家族へ―家族の戦後体制の見かた・超えかた〔第4版〕』有斐閣
 - ・関口久志（2021）『〔改訂〕性の”幸せ”ガイド』エイデル研究所
- などを主に使用する予定。

学生に対する評価

①各講義内での課題：各5点（計75点）

②最終レポート：25点

授業科目名： ソーシャルビジネス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大島 祥子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>社会問題の解決をビジネスの手法で解決を目指すソーシャルビジネスの可能性と課題を理解する</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルビジネスの特徴や手法、現代社会における意義や役割を理解している 2. ソーシャルビジネスの可能性と課題を理解している 3. ソーシャルビジネスの担い手として自らを捉え、関わり方について自分なりのイメージを持っている 			
<p>授業の概要</p> <p>従来は行政サービスとして提供されてきたものが、ニーズの多様化や行財政の逼迫、ボランティア活動の活発化などの社会情勢を受けて、サービスの担い手が多様化しています。そしてそれらの少なくないものがソーシャルビジネスとして提供されています。ビジネスはそもそも社会に要請に応じてあるものですが、ではソーシャルビジネスは従来のビジネスと何が異なるのか。授業ではソーシャルビジネスが生まれた背景や担い手、組織や資金調達などを学ぶとともに、具体的な事例の学習を通じてその理解を深めます。これらの学習を通じて社会課題を扱った映画作品を鑑賞し、自分の言葉でそれを解説するレポートを作成します。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 本授業の概要と進め方、獲得目標を理解する 2. プロボノとは プロボノとは、社会・公共的な目的のために自らの職業を通じてサービスを提供するボランティア活動をいう。このような概念が登場した背景と新しい働き方、社会貢献を学びます。 3. ソーシャル・キャピタルとは 社会貢献活動の中でしばしば使用される概念であるソーシャル・キャピタル（社会関係資本）。関係性に着目し、物事を効果的に進める際に重視されています。ソーシャルビジネスの根幹にある概念として学びます。 			

4. ソーシャルビジネスとは

ソーシャルセクターとは何か、ソーシャルビジネスとは何か。コミュニティビジネスとの違いは何か。ソーシャルビジネスの全体像を理解します。

5. NPOが取り組むソーシャルビジネス

NPO等の非営利セクターが取り組むソーシャルビジネスの事例を学習し、NPOの存在意義を考察します。

6. 企業が取り組むソーシャルビジネス

企業等営利組織が取り組むソーシャルビジネスの事例を学習します。

7. 行政との協働によるソーシャルビジネス

行政と協働、連携することで展開しているソーシャルビジネスの事例を学習します。

8. ソーシャルセクターの法と制度

阪神・淡路大震災後にNPO法が成立し、社会に提供されるサービスが大きく変わってきました。この背景を学び、市民社会を成立させるための課題と展望を考察します。

9. テーマに見るソーシャルビジネス①子育て・子育て支援

社会課題の課題解決・緩和に向けて、ソーシャルビジネスとして提供されているサービスと担い手について学びます。

10. テーマに見るソーシャルビジネス②障がい者支援

社会課題の課題解決・緩和に向けて、ソーシャルビジネスとして提供されているサービスと担い手について学びます。

11. テーマに見るソーシャルビジネス③地球環境問題

社会課題の課題解決・緩和に向けて、ソーシャルビジネスとして提供されているサービスと担い手について学びます。

12. 多様化する資金調達

従前の資金調達の方法としては株式の発行や金融機関からの借入れがあるが、近年はファンドが多様な手法で導入されている。プロジェクトファンド、応援ファンド、そしてクラウドファンド。投資から共感に至る幅広い資金調達の方法を学びます。

13. 映画にみる現代の社会課題とソーシャルビジネス

現代社会を映す鏡でもある映画。映画の作品に描かれた社会課題やソーシャルビジネスを紹介します。（感想を期末レポートとして提出）

14. ケーススタディ（ゲストスピーカー招聘）

関西でソーシャルビジネスを展開する当事者を招き、講演を受けるとともに質問やディスカッションを通じて実態を学びます。

15. 授業の振り返りとレポート課題の解題

本講義で学んだ内容を振り返るとともに、レポート課題（第13講で出題）について解題します。

テキスト

授業内で資料を配布します

参考書・参考資料等

授業内で紹介します

学生に対する評価

◆成績評価方法

- ・授業への取組み姿勢（40%）
- ・レポート（60%）

※ 授業には出席することが前提のため、5回以上欠席した場合、評価は行わない。

◆成績評価基準

- ・授業への取組み姿勢：各回のフィードバックシートから評価。授業内容を理解しようとしているか
- ・レポート：設問の趣旨を理解し、適切な回答を自分の言葉で書いているか

授業科目名： 哲学と倫理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 竹中 正太郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>倫理的な生とは何かを考える</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学者たちの人生や思想を理解する 2. 哲学者たちの考え方を手がかりとして、自分を振り返ることができる 3. 哲学者たちの考え方を手がかりとし、正しい社会の在り方を考察できる 			
<p>授業の概要</p> <p>(1)本授業では、『入門・倫理学の歴史』を通じて、現代に至るまでの哲学者の倫理思想を概観してゆきます。</p> <p>ここで扱われるテーマは「幸福とは何か」「善悪はどのように判断されるか」「善い国家、共同体とはどのようなものか」といったものです。基本的には、これらについて毎回一人の哲学者を対象として倫理思想を紹介します。</p> <p>(2)また、教科書に基づいた講義の合間に、日常生活の中で倫理が要請される場面を取り上げ、実生活に倫理思想がどのように息づいているのか、これを実感してもらうような講義も行う予定です。</p> <p>受講者のみなさんには哲学的、倫理的な問題について自らの見解を持てるよう努めてもらいたいと思います。</p> <p>((2)について、受講者の人数によっては、皆さんの日々の関心を持ち寄って議題を提示し、議論を行う「哲学カフェ」に差し替える可能性があります。)</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 イン트로ダクション（授業概要の説明）</p> <p>第2回 プラトン-善き生とは何か</p> <p>第3回 アリストテレス-中庸の倫理</p> <p>第4回 アウグスティヌス/トマス・アクィナス-神の倫理</p> <p>第5回 正しいことと不正なこと（教科書外）</p> <p>第6回 デカルト-精神と物体</p>			

第7回 ホッブズ-万人の万人に対する闘争

第8回 スピノザ-神と自然

第9回 ヒューム-情念の優位

第10回 ルソー-自然人と文明人

第11回 人生の意味(教科書外)

第12回 ヘーゲル-人倫の体系

第13回 ミル-功利主義

第14回 ニーチェ-生の肯定

第15回 ハイデガー-実存の哲学

テキスト

『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』柘植尚則(編著)／粹出版社

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

毎回の「内容確認テスト(小テスト)」とレポート課題(16周目予定)の合計点で成績をつけます。

注意1:5回以上の欠席者は単位をつけない。

注意2:課題未提出者は欠席扱いとする。

授業科目名： くらしのなかの宗教	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川端 亮
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現代に生きる様々な宗教の由来や歴史を理解し、国内外の多様な宗教的文化・価値観を尊重する姿勢を学ぶ</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 身近にある宗教的文化を理解し説明できる 2) いくつかの代表的な宗教文化について適切な知識を習得している 3) 様々な宗教文化を通して人が持つ価値観の多様性を理解できる 			
<p>授業の概要</p> <p>みなさんが、日常生活で宗教を意識することはあまりないでしょう。現代は「宗教離れ」「無宗教」の時代であるとの指摘がしばしばなされ、日本では宗教は危ないもの、危険なものと思っている人も多いようです。本講義においては、「宗教社会学」という学問の観点から、世界の諸宗教と日本の宗教を概観し、現代社会の様々な場面に宗教が関係していることをあきらかにしていく。そして聖なる宗教の組織や考え方が俗なる経営に役立てることもできる事を教科書を読みながら考える。それらを通して、宗教的文化・価値観の多様性を尊重することの重要性について理解を深めることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション／はじめに：宗教とは？ [課題：コメント（感想／質問）の提出] 2. 宗教は合理的ではない？ [課題：コメント（感想／質問）の提出] 3. カトリックとプロテスタント [課題：コメント（感想／質問）の提出] 4. 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 [課題：コメント（感想／質問）の提出] 5. 宗教と企業のセンスメイキング [課題：コメント（感想／質問）の提出] 			

6. コーシャー、カニバリズム

[課題：コメント（感想／質問）の提出]

7. 臓器移植と宗教

[課題：コメント（感想／質問）の提出]

8. 遺体の尊厳と世俗化

[課題：コメント（感想／質問）の提出]

9. カルトと政教分離

[課題：小テスト、コメント（感想／質問）の提出]

10. カルトとイノベーション

[課題：コメント（感想／質問）の提出]

11. イスラム教

[課題：コメント（感想／質問）の提出]

12. イスラム教と組織

[課題：コメント（感想／質問）の提出]

13. アメリカの宗教

[課題：コメント（感想／質問）の提出]

14. 福音派とアメリカの政治

[課題：コメント（感想／質問）の提出]

15. 宗教とは何か

[課題：コメント（感想／質問）の提出]

※授業は基本的に以上のテーマを中心にして進めていく予定だが、受講者各人の主体的関心にも配慮

し、テーマの順などを変更することもあり得る

テキスト

授業内で資料を配布する

参考書・参考資料等

・池上彰・入山章栄『宗教を学べば経営がわかる』文春新書

学生に対する評価

◆成績評価方法

毎週の提出課題への取り組み状況：10%

第9回授業で実施する「小テスト」の評価：30%

最終課題レポート：60%

◆成績評価基準

・課題への取り組み状況：授業内容を踏まえた感想・質問などが書けているかどうかを評価する。

- ・小テスト：講義内容が理解されているかどうかを評価する。
- ・最終課題レポート：授業内容を理解した上で、しっかりと考察、表現ができているかどうかを評価する。

授業科目名： 仏教の人間観 I	教員の免許状取得のための 中学校 社会：必修科目 高等学校 公民：必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 梶 哲也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>仏教の基本を知り、人間とは何かを考える</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間観なるものに触れる 2. 仏教をはじめとする複数の人間観を学び、他者や共同体のあり方に自分がかかわっていることを自覚できる 3. 自分自身の他者に対する向き合い方を振り返ることができる 			
<p>授業の概要</p> <p>本学の建学の精神である仏教思想に基づき、さまざまな視点から人間とは何かということを考える授業です。私たちはいろいろな問題を抱えながら生きています。しかし、それらの問題に対する私たちの態度は一樣ではありません。日々、それに苦しみながら生きることもあれば、問題を見過ぎし気がつくことなく生活しているということもあります。また一つの問題に対しても、一人ひとりがそれぞれの考えを持っています。この授業では生きていく中で直面するさまざまな問題をとりあげて、それに対して釈尊がどのような態度をとられたのかを知り、また自分自身でも考えるという経験を通して、人間とは何かを学ぶ授業です。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) 「しあわせ」とはなにか1 3) 「しあわせ」とはなにか2 4) 「苦しみ」とはなにか1 5) 「苦しみ」とはなにか2 6) 「自由」とはなにか1 7) 「自由」とはなにか2 8) 「正しさ」とはなにか1 9) 「正しさ」とはなにか2 10) 宗教講座 受講 			

- 11) 宗教講座 振り返り
- 11) 「自分」とはなにか
- 12) 「人間」とはなにか
- 13) 「仏教」とはなにか1
- 14) 「仏教」とはなにか2
- 15) まとめ

レポート課題等を実施

テキスト

参考書・参考資料等

学生に対する評価

◆成績評価方法

授業への参加状況：50%

レポート課題：50%

◆成績評価基準

単位の取得には授業への参加状況とレポート課題の得点の合計で、60点以上を獲得することが必要です。

授業への参加状況：個人ワーク、ペアワークの内容と参加態度、授業内の発言を重点的に評価します。

レポート課題：提出時期、方法、課題内容は授業内で説明します。

授業科目名： 社会科指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 光則
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小・中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）社会科の基礎的理解と社会科授業づくりの実践力の育成 （到達目標） 1. 小学校及び中学校社会科の問題解決的な学習について、授業の構成要素から実感的に理解し、実践のイメージをもてるようにする。 2. 小学校及び中学校社会科の単元構成を理解し、学習指導案を作成する。 3. 模擬授業を行い、全体で振り替えることにより、授業を進める力をつける。			
授業の概要 小学校及び中学校社会科の授業実践記録を手がかりに、社会科成立の歴史的経緯、また、学習指導要領に基づく社会科の教育課程に関して詳説する。次に、地理的分野、歴史的分野、公民的分野について、授業構成論に基づき、理論的かつ具体的に理解させる。以上を踏まえ、各自が授業づくりのテーマを設定し、ICTメディア教材を用いた授業設計（教材研究・学習指導案の作成）と模擬授業を行うことで、実践的知識と技能を習得する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション—小中学校社会科の授業実践の分析を通【コア】(1)-5) 第2回：小中学校の社会科教育の歴史と現代的課題【コア】(1)-1)4) 第3回：小中学校社会科の目標・内容・方法—小中学校社会科学習指導要領の解説—【コア】(1)-1) 第4回：小中学校社会科の授業開発の具体的検討—授業づくりの手順—【コア】((1)-4)(2)-1) 第5回：小中学校社会科の授業開発の具体的検討—デジタル教科書とICTの活用—【コア】(1)-4)(2)-2) 第6回：小中学校社会科の授業開発の具体的検討—指導と評価の一体化—【コア】(1)-2)3) 第7回：小中学校社会科の授業開発の具体的検討—本時の開発—【コア】(2)-1) 第8回：小中学校社会科の授業開発の具体的検討—本時細案の開発—【コア】(2)-1) 第9回：小中学校社会科の学習指導案の設計理論と授業づくり1（地理的分野）【コア】(2)-3)5) 第10回：小中学校社会科の学習指導案の設計理論と授業づくり2（歴史的分野）【コア】(2)-3)5) 第11回：小中学校社会科の学習指導案の設計理論と授業づくり3（公民的分野）【コア】(2)-			

3)5)

第12回：小中学校社会科の模擬授業と評価1（地理的分野）【コア】(2)-4)

第13回：小中学校社会科の模擬授業と評価2（歴史的分野）【コア】(2)-4)

第14回：小中学校社会科の模擬授業と評価3（公民的分野）【コア】(2)-4)

第15回：社会科教育方法論の総括【コア】(1)-1)(2)-1)

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社

参考書・参考資料等

適宜紹介。

学生に対する評価

◆成績評価方法

- ・授業への取り組み状況（20%）
- ・模擬授業への取り組み（30%）
- ・最終課題レポート（50%）

◆成績評価基準

授業への取り組み状況・・・授業中の積極的な発言，グループ活動への貢献，小レポートの内容により評価する。

模擬授業への取り組み・・・プレゼンテーションの内容と構成，模擬授業に関する自己評価・他者評価により評価する。

最終課題レポート・・・小学校社会科授業開発単元に関する学習指導案の内容と構成の適切さにより評価する。

授業科目名： 社会科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 光則
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)			
1. 様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、中学校社会科の授業を構築する力を身につける。			
2. 中学校社会科を教授する際に必要となる教材活用の理論と方法について学ぶ。			
(到達目標)			
1, 生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。			
2, 中学校社会科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。			
3, 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。			
授業の概要			
本授業では、中学校社会科の授業づくりについての基礎的事項を理解するとともに、最終的に学習指導案を作成できるようになることを目指す。その際、地理的分野、歴史的分野の授業形式について具体事例を通して学び、各自が将来行う授業のイメージをつかむ。また、学習指導要領解説を随時参照し、そこで示される目標、内容、資質・能力などについて理解する。授業は講義形式とグループワークを併用し、学習したことを他者との意見交流を踏まえて定着させることを目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーションー社会科はおもしろいのか？ー			
第2回：社会科授業づくりの基礎①ー教育内容・教材・教授行為・学習者ー 【コア】 (1)-2)4) (2)-1)			
第3回：社会科授業づくりの基礎②ー情報機器及び教材の活用法ー 【コア】 (2)-1) 2)			
第4回：社会科授業づくりの基礎③ー評価の方法ー 【コア】 (1)-3)			
第5回：地理的分野の授業づくり①ー地理的な見方・考え方ー 【コア】 (1)-4)			
第6回：地理的分野の授業づくり②ー地理的分野の授業づくりのポイントー 【コア】 (1)-2)			
第7回：歴史的分野の授業づくり①ー歴史的な見方・考え方ー 【コア】 (1)-4)			
第8回：歴史的分野の授業づくり②ー歴史的分野の授業づくりのポイントー 【コア】 (1)-2)			

第9回：地理と社会参画－地理における問題解決型授業－ 【コアカ】 (2)-5)

第10回：歴史と社会参画－歴史における問題解決型授業－ 【コアカ】 (2)-5)

第11回：学習指導案発表の準備①－発表箇所の選定、学習指導案の考え方・書き方－ 【コアカ】 (1)-5)(2)-3)

第12回：学習指導案発表の準備②－学習指導案作成を見据えた発表用ワークシートの作成
【コアカ】 (1)-5)(2)-3)

第13回：学習指導案発表会①－地理－ 【コアカ】 (2)-4)

第14回：学習指導案発表会②－歴史－ 【コアカ】 (2)-4)

第15回：学習内容の相互交流会 【コアカ】 (2)-)

定期試験

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社

参考書・参考資料等

適宜紹介。

学生に対する評価

定期試験60%、課題40%

授業科目名： 社会科指導法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 光則
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>a. 中学校社会科の公民的分野に関して、学習指導要領の変遷と内容を理解する。</p> <p>b. 公民的分野担当の教員として必要な基礎的基本的な知識や技能を身に付ける。</p> <p>c. 公民的分野の授業に求められる基礎的な指導力を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>主に中学校社会科の「公民的分野」をテーマとしつつ、高等学校公民科とも関連づけながら、社会科創設以来の歩みを振り返り、学習指導要領の内容を解説し、授業の実際例や実践的課題について考察する構成とする。学習指導要領を踏まえて生徒自身が特に主体的・対話的で深い学びを進められるような授業実践研究を行う。授業では公民的分野の学習に求められる基礎的・基本的な知識や資料活用の技能、思考力・判断力・表現力の育成に必要な指導について、講義、発表、討論、模擬授業を取り入れ、授業実践力を身に付けることをねらいとする。主な内容として、次の点を扱う。</p> <p>a. 学習指導要領の趣旨とねらいを授業実践に生かす方法</p> <p>b. 確かな学力、主体的・対話的で深い学びを踏まえた公民的分野の学習指導の在り方</p> <p>c. 優れた授業例や模擬授業試行を基にした授業実践力向上</p> <p>d. 中学校社会科で求められる指導内容と方法</p>			
授業計画			
第1回 社会科教育の最新事情と公民的分野に関する教育の現状【コア】(2)-5)			
第2回 社会科の創設のねらいと内容、創設以降の学習指導要領の変遷【コア】(1)-1)4)			
第3回 中学校学習指導要領改訂の要点と社会科公民的分野の目標および内容【コア】(1)-1)4)			
第4回 社会科公民的分野と小学校社会科及び高等学校公民科との内容の系統性【コア】(1)-1)4)			
第5回 公民的分野の教材内容の構成とその取扱い、教材研究の在り方【コア】(1)-4(2)-1))			
第6回 公民的分野学習の学習方法と主体的・対話的で深い学び【コア】(1)-2(2)-1)			
第7回 公民的分野学習の評価（評価規準等）【コア】(1)-3)			
第8回 公民的分野の教材研究と学習指導例（情報通信技術の活用を含む）（現代社会、国民の生活、政治参加）【コア】(1)-4(2)-1)2)5)			
第9回 公民的分野の教材研究と学習指導案の作成【コア】(1)-4(2)-3)			

第10回 公民的分野の模擬授業①（現代社会）【コアカ】(1)-5) (2)-4)
第11回 公民的分野の模擬授業②（政治）【コアカ】(1)-5)(2)-4)
第12回 公民的分野の模擬授業③（経済）【コアカ】(1)-5) (2)-4)
第13回 公民的分野の模擬授業④（国際社会）【コアカ】(1)-5)(2)-4)
第14回 公民的分野・模擬授業への取り組みの総括（成果と課題）【コアカ】(1)-2) 5)(2)-4)
第15回 公民的分野の実践上の諸課題【コアカ】(1)-2)(2)-5)
定期試験
テキスト 『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 公民編』（平成30年3月告示 文部科学省）
参考書・参考資料等 適宜紹介。
学生に対する評価 定期試験60%、課題40%

授業科目名： 社会科指導法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 光則
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>a. 公民科に関して、学習指導要領の変遷と内容を理解する。</p> <p>b. 公民科を担当する教員として必要な基礎的基本的な知識や技能を身に付ける。</p> <p>c. 公民科の授業に求められる基礎的な指導力を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>高等学校公民科の学習指導要領の内容を解説し、当教科のねらいに沿いつつ、中学校社会科の公民的分野とも関連付けながら、教科特有の実践的課題の解決や生徒自身が特に主体的・対話的で深い学びを進められるような授業実践研究を行う。授業では、講義、発表、討論、模擬授業を取り入れ、授業実践力の育成を目指す。主な内容として、次の点を扱う。</p> <p>a. 学習指導要領の趣旨とねらいを授業実践に生かす方法</p> <p>b. 確かな学力、主体的・対話的で深い学びを踏まえた公民科の学習指導の在り方</p> <p>c. 優れた授業例や模擬授業試行を基にした授業実践力向上</p> <p>d. 公民科で求められる指導内容と方法</p>			
授業計画			
第1回 社会科教育の最新事情と公民科教育の現状 【コア】(2)-5)			
第2回 高等学校公民科創設の経緯と学習指導要領の変遷 【コア】(1)-1)			
第3回 高等学校学習指導要領改訂の要点と「公共」の目標および内容 【コア】(1)-1)			
第4回 高等学校学習指導要領改訂の要点と「倫理」の目標および内容 【コア】(1)-1)			
第5回 高等学校学習指導要領改訂の要点と「政治・経済」の目標および内容 【コア】(1)-1)			
第6回 公民科における指導内容の関連と評価、中学校社会科との系統性、道徳との関係 【コア】(1)-2)3)			
第7回 公民科の指導例（情報通信技術の活用を含む）（公共、倫理、政治・経済） 【コア】(2)-1)2)5)			
第8回 「公共」の構成と学習指導案の作成 【コア】(1)-4)(2)-3)			
第9回 「倫理」の構成と学習指導案の作成 【コア】(1)-4)(2)-3)			
第10回 「政治・経済」の構成と学習指導案の作成 【コア】(1)-4)(2)-3)			
第11回 模擬授業①「公共」と授業結果の分析 【コア】(1)-5)(2)-4)			

第12回 模擬授業②「倫理」と授業結果の分析 【コア】 (1)-5)(2)-4)

第13回 模擬授業③「政治・(経済)」と授業結果の分析 【コア】 (1)-5)(2)-4)

第14回 模擬授業④「(政治)・経済」と授業結果の分析 【コア】 (1)-5)(2)-4)

第15回 公民科教育の実践上の諸課題 【コア】 (1)-2)(2)-5)

定期試験

テキスト

『中学校学習指導要領解説 社会編』(平成29年3月告示 文部科学省)

『高等学校学習指導要領解説 公民編』(平成30年3月告示 文部科学省)

参考書・参考資料等

適宜紹介。

学生に対する評価

定期試験60%、課題40%

授業科目名： FP（将来設計）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 一晴
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>「将来設計、社会保険、民間保険、金融・経済・投資」に関する知識を身に付ける。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフプランニングの知識を身につける 2. リスク管理の知識を身につける 3. タックスプランニングの知識を身につける 			
授業の概要			
<p>人生をより良いものにするために、お金の知識は欠かせない。誰もがそう思いながら、それを身に付けることなく社会に出てゆく。いざ学習しようとしても、何から始めればよいかわからない場合が多い。1. 年金をはじめとする社会保険は、どのような仕組みになっているのか。2. 数ある保険商品の中から、自分のニーズに合うものはどれなのか。3. 自分が支払う税金はどのように計算されているのか。</p> <p>FP（ファイナンシャル・プランナー）資格は、こうした幅広い分野から出題され、お金にまつわる知識を一通り学ぶことができる。学習するだけで、人生のイメージトレーニングになる。また、FP資格は「就職するため」ではなく、「就職してから」も役立つ。全員が生活者であり、誰もがお金と向き合うことになるからだ。決して、金融業界だけのものではない。</p> <p>※3級ファイナンシャル・プランニング技能検定試験（日本FP協会実施）の合格レベルに達することを目標とする。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1 ライフプランニングと資金計画① FPの基礎 2 ライフプランニングと資金計画③ 社会保険（年金以外） 3 ライフプランニングと資金計画⑤ 社会保険（年金）、企業年金等・過去問対策 4 リスクマネジメント② 生命保険（主な商品） 5 リスクマネジメント④ 第三分野の保険・過去問対策 6 金融資産運用② 貯蓄型金融商品、債券 7 金融資産運用④ 投信信託、外貨建て金融商品 8 タックスプランニング① 所得税の基本、所得税の計算（各所得の計算） 9 タックスプランニング③ 所得税の計算（所得控除） 			

10 不動産① 不動産の基本、不動産の取引
11 不動産③ 不動産に関する税金、不動産の有効活用
12 相続・事業承継① 相続の基本
13 相続・事業承継③ 贈与税の計算
14 ライフプランニングと資金計画、リスクマネジメント、金融資産運用のまとめ
15 まとめと総合テスト
テキスト
滝澤ななみ『みんなが欲しかった！FPの教科書 3級 2023-2024年』TAC出版
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
◆成績評価基準
小テスト・レポート課題（30%）、総合テスト（70%）
◆成績評価方法
・小テスト・レポート課題…毎回の授業で学習した内容を理解できているかを問う。
・総合テスト…過去にFP3級資格で出題された問題から出題する予定。

授業科目名： FP（資産運用）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 一晴
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「税金、不動産、相続」に関する知識を身に付ける。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 金融資産運用の知識を身につける 2. 不動産の知識を身につける 3. 相続の知識を身につける 			
<p>授業の概要</p> <p>人生をより良いものにするために、お金の知識は欠かせない。誰もがそう思いながら、それを身に付けることなく社会に出てゆく。いざ学習しようとしても、何から始めればよいかわからない場合が多い。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年金をはじめとする社会保険は、どのような仕組みになっているのか。 2. 数ある保険商品の中から、自分のニーズに合うものはどれなのか。 3. 自分が支払う税金はどのように計算されているのか。 <p>FP（ファイナンシャル・プランナー）資格は、こうした幅広い分野から出題され、お金にまつわる知識を一通り学ぶことができる。学習するだけで、人生のイメージトレーニングになる。また、FP資格は「就職するため」ではなく、「就職してから」も役立つ。全員が生活者であり、誰もがお金と向き合うことになるからだ。決して、金融業界だけのものではない。</p> <p>※3級ファイナンシャル・プランニング技能検定試験（日本FP協会実施）の合格レベルに達することを目標とする。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ライフプランニングと資金計画② 各種資金計画（教育・住宅・老後） 2 ライフプランニングと資金計画④ 社会保険（年金） 3 リスクマネジメント① 保険の基本・生命保険（仕組み） 4 リスクマネジメント③ 損害保険・第三分野の保険 5 金融資産運用① 金融・経済の基本 6 金融資産運用③ 株式 7 金融資産運用⑤ 税金、ポートフォリオ・過去問対策 8 タックスプランニング② 所得税の計算（各所得の計算・課税標準の計算） 			

- 9 タックスプランニング④ 所得税の計算（税額の計算と税額控除）、申告・納付・過去問対策
- 10 不動産② 不動産に関する法令
- 11 不動産④ まとめ・過去問対策
- 12 相続・事業承継② 相続税の計算
- 13 相続・事業承継④ 10～12回のまとめ・過去問対策
- 14 タックスプランニング、不動産、相続・事業承継のまとめ
- 15 まとめと総合テスト

テキスト

滝澤ななみ『みんなが欲しかった！FPの教科書 3級 2023-2024年』TAC出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

◆成績評価方法

小テスト・レポート課題（30%）、総合テスト（70%）

◆成績評価基準

- ・小テスト・レポート課題…毎回の授業で学習した内容を理解できているかを問う。
- ・総合テスト…過去にFP3級資格で出題された問題から出題する予定。

授業科目名： 心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤 美加
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>心理学概論</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の様々な領域における基本的な知識を習得する 2. 心理学的なものを見方を理解できる 3. 心理学を実践と結びつけながら考え、相互の理解を深める 			
<p>授業の概要</p> <p>心理学の様々な領域における基本的な知識を習得する。それを基礎として現代の心理学における主要なトピックスの理解を目指す。</p> <p>この授業では、学習、発達、情動、知能、パーソナリティ、適応、対人関係、社会と文化といった、心理学の諸理論についての概要を把握した上で、それを実践と結びつけながら考え、相互の理解を深めることを目的とする。たとえば人の成長・発達と心理との関係や日常生活と心の健康との関係として具体的事例に基づきながら検討を行う。さらに、心理的支援の方法と実際として心理検査やカウンセリング、心理療法の概要や実施方法について知る。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 心理学の理論と方法 3. 記憶と学習 4. 発達 5. 情動 6. 知能 7. パーソナリティ 8. 適応 9. 対人関係 10. 社会と文化 11. 心の健康 12. 発達の障害・精神の障害 13. 心理臨床の実践1：福祉の領域における心理臨床の役割 			

14.心理臨床の実践2：学校現場における心理臨床の特徴

15.総括

テキスト

参考書・参考資料等

学生に対する評価

◆成績評価方法

課題100%

◆成績評価基準

課題は、指定されたテーマについて、授業内容をよく理解し、要点を抑えてまとめられているかを評価する。

授業科目名： コミュニティ心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石盛 真徳
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>少子高齢化社会における豊かな「まちづくり」活動をテーマに取り上げ、身近な活動事例を通じてコミュニティ心理学の概念および理論について理解をする。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティ心理学の基本概念を習得している 2. 社会問題や身近なできごとに対して多角的視点で考察ができる 3. コミュニティアプローチの具体的な実践例を理解している 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、わが国における法制度の整備を含めた「まちづくり」の歴史的展開、住民のコミュニティに対する意識の変遷についてコミュニティ心理学の立場から検討する。また、犯罪、災害、環境問題等のまちづくり活動の個別テーマに対して、コミュニティ心理学的なアプローチによる解決方法がどのように有効であるのかについても検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 コミュニティ心理学の歴史と基本概念</p> <p>第2回 犯罪とコミュニティ1：近隣コミュニティと犯罪予防</p> <p>第3回 犯罪とコミュニティ2：近隣コミュニティと犯罪に関する理論</p> <p>第4回 犯罪とコミュニティ3：再犯防止と社会内処遇</p> <p>第5回 災害とコミュニティ1：リスク認知</p> <p>第6回 災害とコミュニティ2：防災対策・活動</p> <p>第7回 環境問題とコミュニティ1：地域環境問題の構造</p> <p>第8回 環境問題とコミュニティ2：環境配慮行動の意思決定プロセス</p> <p>第9回 景観とコミュニティ1：景観意識の変遷</p> <p>第10回 景観とコミュニティ2：景観をめぐる問題と法制度</p> <p>第11回 景観とコミュニティ3：景観のよさの評価</p> <p>第12回 ボランティアと市民参加1：ボランティア活動の概要</p> <p>第13回 ボランティアと市民参加2：ボランティアへの参加とコミュニティ</p> <p>第14回 行政とのパートナーシップ1：「協働」を支える理論的背景</p> <p>第15回 行政とのパートナーシップ2：行政とのパートナーシップにおける課題</p>			

テキスト

『コミュニティの社会心理学』加藤潤三・石盛真徳・岡本卓也（編）／ナカニシヤ出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

◆成績評価方法

ミニレポート30%、レポート課題70%

◆成績評価基準

ミニレポートは、各回の授業で解説したコミュニティ心理学の概念と理論を用いて考察し、ミニレポートとして適切にまとめられているのかで評価を行う。

期末レポートは、自分の居住地・出身地で取り組まれている「まちづくり」活動、または自分がこれまでに関わったことのある「まちづくり」活動について、SWOT分析を行い、Strength（強み）、Weakness（弱み）、Opportunity（機会）、Threat（脅威）の各側面について、コミュニティ心理学の観点から、その活動の問題点や可能性について適切に論じられているかで評価を行う。さらにクロスSWOT分析を行い、まちづくり活動の戦略について検討できているかも評価する。

授業科目名： 消費者心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 酒井 浩二
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 消費者の心理と行動を心理学的に理解する ◆到達目標 1. 消費者行動と 購買意思決定過程モデルについて理解している 2. 消費者の満足・不満足について、購買意思決定過程モデルから検討することができる 3. 社会的文化的状況下において集団と個人から影響をうける消費者行動について理解している			
授業の概要 企業の広告戦略や販売促進活動の実例を紹介し、企業が消費者の心理と行動をどのように理解し、働きかけているのかを心理学的な理論に基づいて説明します。			
授業計画 1. ガイダンス 2. 消費者行動とマーケティング 3. 消費者行動の心理学的検討 4. 消費者の意思決定過程 1 5. 消費者の意思決定過程 2 6. 消費者行動の動機づけと感情 1 7. 消費者行動の動機づけと感情 2 8. 消費者の個人特性 1（パーソナリティ） 9. 消費者の個人特性 2（ライフサイクル） 10. 消費者の環境要因 1（購買・販売の状況要因） 11. 消費者の環境要因 2（家族の影響） 12. 消費者の環境要因 3（販売員の説得） 13. 情報の伝播と消費者行動 14. 消費者のための商品デザイン 15. まとめ、振り返り 定期試験 テキスト			

参考書・参考資料等

学生に対する評価

◆成績評価方法

授業への取組姿勢（20%）

毎回の演習課題（20%）

レポート（10%）

期末試験（50%）

◆成績評価基準

授業への取組姿勢と毎回の演習課題：毎週の授業への取組状況で評価します

レポート：授業で紹介した内容の活用度をレポートの点数で評価します

期末試験：授業で紹介した全範囲の理解度をテストの点数で評価します

授業科目名： 公衆衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今村 行雄
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>社会医学の仕組みを理解する</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の歴史と人々の暮らしにおける健康維持の役割を理解している 2. 公衆衛生に基づいた健康施策とその役割が理解できる 3. 地域の特徴のアセスメントの基本的能力を習得している 			
<p>授業の概要</p> <p>個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、公衆衛生学は社会水準で健康を取り扱うので社会医学とも呼ばれる。その範囲は多岐にわたり、健康に影響をおよぼす様々なリスクを同定し、予防活動に結びつける学問である。本講義では「社会に役立つ公衆衛生」を基本として、公衆衛生学の理論、衛生行政、予防、健康、老人・成人保健、生活習慣病や難病疾患、産業衛生、母子保健、衛生統計などについて学習する。さらに、世界における日本の現状および動向について理解し、日本における公衆衛生のあり方について考える</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の科学としての公衆衛生学 2. 人口の動向 3. 妊娠・出産と胎児の保健 4. 新生児・乳幼児期の保健 5. 青少年の保健 6. 成人期の保健 7. 老年期の保健 8. 老年期の保健と死の問題 9. 心の健康と心身障害 10. 環境の衛生 11. 環境汚染と公害 12. 感染症：微生物による病気 13. 食物と健康 			

14. 職業生活と健康

15. 保健・医療の行政

定期試験

テキスト

- ・『国民衛生の動向2024/2025』一般財団法人厚生労働統計協会

参考書・参考資料等

授業時間内で紹介します。

学生に対する評価

◆成績評価方法

定期試験の結果および授業態度で評価します。

授業態度：10点、定期試験：90点、あわせて100点

◆成績評価基準

60点以上で単位認定し、点数があがると評価はよくなります。

授業科目名： 疫学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神谷 訓康
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>健康科学の基本である疫学の考え方と知識を修得する。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学の方法と基本的な考え方を理解している 2. 公衆衛生看護学における特定地域の疾患構造などのアセスメントが自立して学習できる 3. 保健活動などの根拠に必要な知識を習得している 			
<p>授業の概要</p> <p>疫学とは、疾病の頻度や発生状況を統計学的に捉え、その要因を検討する学問である。またリスクのより高い集団と背景を検討し予防や治療などの対策講じるための基礎となる学問である。本講義では、疫学の基本的な手法と考え方を修得し、将来的に医療者となり実践のできる疫学のノウハウを修得することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断の基本統計 2. 疾病の頻度の指標（疾病、比、割合、率）主な疾患と疫学①（環境） 3. 主な疾患と疫学②（学校・産業保健） 4. 主な疾患と疫学③（がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、難病） 5. アウトブレイク時の疫学調査（流行、アウトブレイク時の流行調査の基本） 6. 疫学研究における対象集団の選定、曝露と疾病発生 7. 研究方法① エビデンスレベル、記述研究、生態学的研究、横断研究 8. 研究方法② コホート研究、症例対照研究 <p>小テスト①（範囲：1回目から8回目までの授業内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 要因分析（相対危険、寄与危険） 10. 政策のための分析 11. 介入研究、事業の評価 12. 誤差と偏り（偶然誤差と系統誤差、精度と妥当性、選択の偏り、情報の偏り） 13. 交絡とその制御方法（交絡の概念、交絡の制御方法） 14. スクリーニング（感度と特異度、ROC曲線） 			

1 5. 疾病登録（意義と目的、がん登録、循環器疾患の登録）

小テスト②（範囲：9回目から15回目までの授業内容）

定期試験

テキスト

講義内容について、配布資料および事後課題を光華naviにアップするので必ず予復習をすること。

参考書・参考資料等

- ・『公衆衛生がみえる2024-2025 第6版』メディックメディア

学生に対する評価

◆成績評価方法

毎回の講義後の課題：20%、小テスト：20%、定期試験：60%

◆成績評価基準

授業への参加度…カードリーダーで確認する。

講義後の課題…授業内容をよく理解しているか評価する。

小テスト等…授業内容をよく理解しているか評価する。

定期試験…授業で学んだ知識・理解度を問う問題を出題する予定。

※授業には出席することが前提のため、出席に対しての加点及び評価は行わない。

授業科目名： 学校保健	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 廣田 直美
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	学校保健		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>学校における保健活動である学校保健の目的や内容、児童生徒の健康課題などを踏まえ、学校における健康づくりの意義や基礎的知識、学校内外の関係者・関係機関が連携した健康づくりの実際を学ぶ。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健の目的、内容、方法について理解している 2. 学校保健における保健事業の立案を理解している 3. 学校保健教育の展開方法や学校保健管理の実際を理解している 			
<p>授業の概要</p> <p>教育の場における保健である学校保健の目的や意義を理解し、学校保健活動の実践にあたり必要な基礎的知識を概説する。また、児童生徒の健康課題の現状とその対応について具体的に学ぶため、講義・事例検討・演習の中で、学生は各自で考察・発表を行う。この授業は、養護教諭養成課程における「養護に関する科目」の「学校保健」に分類される必修科目であり、保健師教育課程における公衆衛生看護学の「学校保健」に分類される必修科目である。また、養護教諭1種免許状および保健師国家試験資格取得のために必要な科目である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回目：科目のオリエンテーション、学校保健の目的・構成・歴史</p> <p>第2回目：学習指導要領に基づく「保健学習」</p> <p>第3回目：児童生徒の「発育発達」と「疾病・異常」</p> <p>第4回目：児童生徒の健康状態の把握と指導①健康観察・健康相談</p> <p>第5回目：児童生徒の健康状態の把握と指導②健康診断・保健調査票</p> <p>第6回目：学校環境衛生</p> <p>第7回目：学校保健計画及び学校安全と学校安全計画</p> <p>第8回目：養護教諭の職務の実際（外部講師）</p> <p>第9回目：小テスト、学校における感染症</p> <p>第10回目：学校保健における健康課題と支援①体とこころの健康、学校給食と食育</p> <p>第11回目：学校保健における健康課題と支援②性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止、がん教育</p>			

第12回目：学校保健における健康課題と支援③児童生徒の自殺、いじめ、虐待、不登校

第13回目：学校保健における健康課題と支援④慢性疾患、医療的ケア

第14回目：特別支援教育と関係機関との連携

第15回目：学校保健の展開：学校保健における連携、ヘルス・プロモーション・スクール、まとめ

定期試験

テキスト

- ・教員養成系大学保健協議会／編『【第8次改訂】学校保健ハンドブック』ぎょうせい

参考書・参考資料等

- ・公益財団法人日本学校保健会『学校保健の動向（最新版）』丸善出版
- ・一般財団法人 厚生労働統計協会（編集）『国民衛生の動向2024/2025』

学生に対する評価

◆成績評価方法

1. 授業・グループワーク参加状況・・・授業・グループワークの主体的取組状況により評価する。
2. 演習課題・・・指定されたテーマについて、授業内容をよく理解し、要点を押さえてまとめられているか評価する。
3. 小テスト・定期試験・・・授業で学んだ知識・理解度を問う問題を論述式・選択式で出題する。

◆成績評価基準

1. 授業への参加度（10%）
2. 演習課題レポート（20%）
3. 小テスト（10%）
4. 定期試験（60%）

授業科目名： 養護概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 堀井 節子
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護概説		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>学校における養護教諭の役割と専門性を理解する。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭の5つの職務について理解している 2. 養護教諭の職務に直接影響を与える教育関係法規について、歴史（職制の向上）も含めて理解している 3. 学校の健康実態を踏まえた保健室経営計画を作成し、発信することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>養護教諭の職務について基礎的な知識と技術を学ぶ。養護教諭の職務内容は保健管理・保健教育・保健組織活動・健康相談・保健室経営の5領域とし、具体的に教授する。また、児童生徒等の心身の健康課題の解決に向けて、養護教諭に求められる資質や望ましいあり方について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回 授業計画について／学校教育</p> <p>第 2 回 養護教諭の歴史／養護教諭の職務</p> <p>第 3 回 保健管理1：救急処置、健康診断</p> <p>第 4 回 保健管理2：健康観察、疾病管理・予防</p> <p>第 5 回 保健管理3：学校環境衛生（小テスト1）</p> <p>第 6 回 保健管理4：健康相談、保健指導</p> <p>第 7 回 保健教育</p> <p>第 8 回 保健室経営</p> <p>第 9 回 保健組織活動（小テスト2）</p> <p>第10回 子どもの現代的な健康課題とその対応1</p> <p>第11回 子どもの現代的な健康課題とその対応2（グループ討議）</p> <p>第12回 子どもの精神保健</p> <p>第13回 学校安全と危機管理</p> <p>第14回 学校における養護教諭の役割と展望1（グループ討議）</p>			

第15回 学校における養護教諭の役割と展望2（報告会）

定期試験

テキスト

・編者：采女智津江『新養護概説』少年写真新聞社

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する

学生に対する評価

◆成績評価方法

1. 授業の参加姿勢
2. 課題
3. 定期試験

◆成績評価基準

1. 授業の参加姿勢（20%）：授業への参加、個人ワークやグループワークの参加、リフレクションペーパーの内容などを評価する
2. 課題（20%）：課題に関する既習内容を踏まえ、論理的に書かれているかどうかを評価する。レポートのテーマは授業時に提示する。
3. 定期試験（60%）：法的根拠、養護教諭の職務、養護教諭の役割を理解できているか。

授業科目名： 看護コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 西村 舞琴、松山 洗斗
			担当形態： オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法		
授業のテーマ及び到達目標			
◆授業のテーマ 看護におけるコミュニケーション技術の基礎を学ぶ。			
◆到達目標			
1. コミュニケーションの概念と主要な理論を理解する			
2. 基本的コミュニケーションの技法を理解する			
3. コミュニケーション技法の看護における応用を理解する			
授業の概要			
看護技術の一部に、コミュニケーション技術がある。対人関係職である看護職において、コミュニケーションは必須のスキルである。日常場面におけるコミュニケーションの基本に加え、医療場面ならではの必要なスキルが存在する。コミュニケーションの原則を理解し、今後の演習・実習の基盤となるコミュニケーション能力の基礎を養う。			
授業計画			
1回：実習の振り返りとコミュニケーションの基本要素（西村）			
2回：コミュニケーションの準備（西村）			
3回：傾聴する技術（西村）			
4回：質問する技術（西村）			
5回：看護面接の技法（西村）			
6回：問診の実際（西村）			
7回：障害のある対象者とのコミュニケーション（西村）			
8回：アサーティブコミュニケーション（松山）			
テキスト			
なし。毎回授業資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
授業内で紹介する。			
学生に対する評価			
◆成績評価方法			
各回のリフレクションペーパー：70%（1～7回の全7回分）、最終レポート：30%			

◆成績評価基準

リフレクションペーパーは、

A100点：発展的な自己の考えを記載できている

B80点：自己の考えを記載できている

C60点：感想にとどまる、極端に分量が少ない

D0点：未提出

で評価する。

リフレクションペーパーの提出の締切は、授業当日の23時59分とし、遅刻は30点として取り扱う。

最終レポートの評価内容については、授業内で通知する。

授業科目名： 家族看護学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 荃津 智子、山崎 あけみ、 川原 妙
			担当形態： オムニバス
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法		
授業のテーマ及び到達目標			
◆授業のテーマ			
看護における家族支援について学ぶ			
◆到達目標			
1. 家族の概念について理解する			
2. 家族の構造・機能、家族の発達等の家族看護に必要な理論を理解する			
3. 家族看護におけるアセスメント、支援について理解する			
授業の概要			
現代社会における社会的・文化的な背景や環境から家族とは何かを再考し、家族の概念や家族の発達、家族システムの概要を学ぶ。			
また、看護における家族看護発展の歴史、家族看護の目的、看護の役割を理解し家族支援について考える。事例を通して家族看護を実践するための家族アセスメント、援助などの基本を学ぶ			
授業計画			
1. 授業ガイダンス、家族看護の歴史的背景、家族看護とは（荃津）			
2. 家族について考える：課題（自分が考える家族とは）（荃津）			
3. 課題を通して「家族」について考える、現代社会における家族（荃津）			
4. 家族の発達と発達課題（荃津）			
5. システムとしての家族（荃津）			
6. ジェノグラム、エコマップについて、課題提示（荃津）			
7. 課題の確認、家族のストレス対処（荃津）			
8. 家族のセルフケア、パートナーシップ（荃津）			
9. 前半のまとめ（荃津）			
10. 家族看護過程とは（山崎）			
11. 家族看護過程（短い展開・長期にわたる展開の例）（山崎）			
12. 家族看護の実践例（川原）			
13. 家族看護の実践例（家族アセスメントの例）（川原）			

14. 家族とのコミュニケーション技術（川原）

15. まとめと最終課題の取り組み（荃津）

テキスト

・山崎あけみ『家族看護学（改訂第3版）』南江堂

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する

学生に対する評価

◆成績評価方法

下記の課題を以下の割合で評価し、総合評価60点以上が合格となる

- ①授業終了後のリフレクションペーパー 36% (3点×12回)
- ②家族についてのレポート 10%
- ③中間レポート 24%
- ④最終課題レポート30%

◆成績評価基準

リフレクションペーパー：学んだこと、感想、疑問などが簡潔にまとめられている。締め切り期日までの提出をもって出席となる。遅れた場合は理由によっては遅刻として処理する。

課題レポート

- ①課題内容について記述されている
- ②課題内容に沿って適切に論述され自らの考えをまとめている。
- ③締め切り期日が守られている。締め切りに期日の遅れは減点となる

授業科目名： 看護と栄養	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西井 穂
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	栄養学（食品学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>ヒトが生命活動を営むために食物を摂取し、体内での消化・吸収・代謝・排泄にいたる栄養について、科学的に学ぶ。栄養についての基礎的知識を習得することで、栄養とヒトの健康の関連について、科学的に理解する。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の生命を維持する食品成分の栄養素が理解できている 2. 栄養素の消化・吸収のしくみと健康の関係について理解している 3. 人間の食行動の特性と健康教育について理解している 			
<p>授業の概要</p> <p>ヒトは生活現象を営むために必要な物質を外界から取り入れ、それを利用している。この外界から適当な物質を取り入れて生活現象を営むために活用することを“栄養”といい、その取り入れる物質を“栄養素”という。栄養学とは、この栄養に関する一切の現象を科学的に究明する学問である。この営みに関する基本を学び、多職種連携の中で看護師として栄養管理に介入できる知識の修得を目指す。具体的には、五大栄養素（炭水化物・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラル）の種類・はたらきと消化・吸収、そして代謝の基本事項、栄養管理の流れと方法の概要について学ぶ。そのうえで、ライフステージおよび疾病別の栄養・食事管理、健康教育についても学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスプロモーションおよび国民健康栄養調査より、食生活上の問題と改善策を学ぶ。 2. 日本人の食事摂取基準の基本事項について理解する。 3. 炭水化物・脂質・たんぱく質の分類について理解する。 4. 炭水化物・脂質・たんぱく質の消化・吸収について理解する。 5. 炭水化物・脂質・たんぱく質の代謝について理解する。 6. ビタミンの分類と消化・吸収について理解する。 7. ミネラルの分類と消化・吸収について理解する。 8. 栄養ケア・マネジメント：流れ、マネジメント項目と意義について理解する。 9. ライフステージ別栄養管理：妊娠期の特性とその栄養管理について考える。 			

10. ライフステージ別栄養管理：乳児期・成長期の特性とその栄養管理について考える。
11. ライフステージ別栄養管理：高齢期の特性とその栄養管理について考える。
- 【課題；自分の健康・栄養に関する問題を考える】
12. 栄養補給法、病人食とその分類について理解する。
13. 疾病別栄養管理の概要：栄養代謝性疾患（肥満症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風）
14. 疾病別栄養管理の概要：循環器疾患（高血圧症、心疾患） / 腎・泌尿器疾患
15. まとめ及び振り返り

テキスト

毎回の授業時に必要な資料を提示する。必ず確認しておくこと。

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

◆成績評価方法

授業への取り組み状況30%、課題20%、確認テスト50%により評価する。

◆成績評価基準

・授業への取り組み状況30%

光華navi上に設定されたテストへの回答をもって出席とみなす。欠席回数が所定授業回数の1/3を超えた場合は、単位の修得を認めない。回答締切期日に留意すること（光華naviのメンテナンス日時にも気をつけてください）。このテストの正答を「取り組み」として評価する。

・課題20%

授業内容を理解できているか・要点をおさえられているか・主体的な学びになっているかを評価する。提出期限を1週間以上過ぎたもの、コピー&ペーストや他の受講者の盗用（盗用の場合、盗用した側・された側ともに）と思われるものには評価を行わない。

・確認テスト50%

「看護と栄養」で学んだ知識・理解度を問う。光華naviのテスト機能を用いて実施の予定。論述形式の出題を含む。他の受講者の盗用と思われるものには（盗用の場合、盗用した側・された側ともに）評価を行わない。

授業科目名： 人体の構造と生理機能	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上野 正樹
			担当形態： 単独
科目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	解剖学・生理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>看護師、助産師、保健師、養護教諭を目指して学ぶ人にとって、すべての基本になる人体の構造（解剖学・組織学）と人体の機能（生理学・生化学）にかかわる知識を習得し、人体の理解を深める。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学に準拠して人体の諸器官の「構造」について理解している 2. 生理学に準拠して人体の諸器官の「機能」について理解している 3. 外部環境に対する反応としての生命維持の仕組み、遺伝・生殖・発生、老化の仕組みの基本が理解できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>解剖学・生理学は「人体の構造と生理機能」を学ぶ学問で、医学・医療の基礎になる、最も重要な専門基礎分野の一つです。解剖学・生理学の知識が無ければ、私たちの毎日の生活が、どのような'からだ'の仕組みで行われているのかを理解することができず、それらが異常になった時の'からだ'の状態を理解することもできません。医療の分野で働く人すべてが、解剖学と生理学の知識を効果的に習得する必要があります。本授業では、身体の生命活動を維持する機構、身体生命活動を活用する機能、身体を保護し、種を保存する機能の面から、身体各臓器の構造と機能を系統的に学びます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 イン트로ダクション（授業を始める前に。解剖・生理学を学ぶこと。）</p> <p>第2回【第1章】解剖生理学の基礎知識（人体の基本構造・身体の階層性・基本単位としての細胞・器官系の機能と組織の構造）</p> <p>第3回【第3章】呼吸と血液の働き：（呼吸の役割・ガス交換・外呼吸と内呼吸）</p> <p>第4回【第3章】呼吸と血液の働き：（呼吸器系の構造・呼吸運動と呼吸器量）</p> <p>第5回【第3章】呼吸と血液の働き：（肺循環・呼吸運動の調節・呼吸器障害の病態生理・ガス交換と赤血球の機能）</p> <p>第6回【第3章】呼吸と血液の働き：（白血球・血小板・血漿タンパク質の種類と機能）</p> <p>第7回【第4章】血液の循環とその調節：（循環器系の構造・心臓の構造）</p>			

- 第 8 回【第 4 章】血液の循環とその調節：（心臓の拍出機能・血液の循環の調節）
- 第 9 回【第 4 章】血液の循環とその調節：（動脈系・毛細血管・静脈系・リンパ管系の構造と機能）
- 第 10 回【第 5 章】体液の調節と尿の生成：（腎臓の構造と機能・尿の生成）
- 第 11 回【第 5 章】体液の調節と尿の生成：（尿路の構造と排尿機能）
- 第 12 回【第 5 章】体液の調節と尿の生成：（体液とその調節機能・電解質バランス・酸塩基平衡）
- 第 13 回【第 2 章】栄養の消化と吸収：（消化器系の概要，口腔・咽頭・食道の構造と機能）
- 第 14 回【第 2 章】栄養の消化と吸収：（腹部消化管の構造と機能）
- 第 15 回【第 2 章】栄養の消化と吸収：（消化と吸収，肝・胆・膵の構造と機能）
- 第 16 回【第 8 章】情報の受容と処理：（中枢・末梢神経系の概要・神経系の細胞の機能）
- 第 17 回【第 8 章】情報の受容と処理：（神経系の構造と機能）
- 第 18 回【第 8 章】情報の受容と処理：（中枢神経組織の機能と伝導路・脳神経）
- 第 19 回【第 8 章】情報の受容と処理：（脳の高次機能）
- 第 20 回【第 8 章】情報の受容と処理：（感覚器と特殊感覚）
- 第 21 回【第 6 章】内臓機能の調節：（自律神経系の構造と機能）
- 第 22 回【第 6 章】内臓機能の調節：（ホルモンの種類と作用の概要・下垂体・甲状腺・膵臓の構造と機能）
- 第 23 回【第 6 章】内臓機能の調節：（副腎・性腺の構造と機能・ホルモンの調節機構）
- 第 24 回【第 7 章】身体の支持と運動：（骨格系の構造・骨の細胞生物学と骨代謝）
- 第 25 回【第 7 章】身体の支持と運動：（筋系の構造・筋の細胞生物学）
- 第 26 回【第 10 章】生殖・発生と老化の仕組み：（生殖器の構造と機能）
- 第 27 回【第 10 章】生殖・発生と老化の仕組み：（受精と胎児の発生）
- 第 28 回【第 9 章】身体機能の防御と適応：（皮膚の構造と機能・体温の調節）
- 第 29 回【第 9 章】身体機能の防御と適応：（免疫系組織の構造と機能・免疫反応）
- 第 30 回【第 10 章】生殖・発生と老化の仕組み（老化のメカニズムと身体の変齢変化）

定期試験

テキスト

・坂井 建雄『人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第 11 版』医学書院

参考書・参考資料等

・畠山 鎮次『人体の構造と機能[2] 生 化学 第14版』医学書院

学生に対する評価

◆成績評価方法

成績評価は，授業への取り組み（出席状況・態度など），レポートの提出状況（提出回数・記載内容など），（小テストを行ったときはその成績），期末定期試験の成績を総合的に評価し

ます。なお、出席率が3分の2（20回の出席）に足りない場合は期末定期試験を受験することができません。

◆成績評価基準

成績評価基準は、授業に対する取り組みは10点満点、レポート提出状況（および小テストを行ったときはその点数）は25点満点、期末定期試験は65点満点で評価し、総計100点で評価した点数を成績とします。レポートはA～Cの三段階で評価します。提出期日に遅れたときは点数×0.9で評価します。提出がない場合は0点です。期末定期試験の結果により、レポート提出状況の評価割合を上げ、期末定期試験の評価割合を下げます。

授業科目名： からだの防御の仕組み	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 上野 正樹
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	「微生物学、免疫学、薬理概論」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>看護師、助産師、保健師、養護教諭を目指して学ぶ人にとって必要不可欠な知識である、病原体の特性、感染および感染症の基礎知識、免疫機能など病原体に対するからだの防御機構に関する知識を習得する。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌・ウイルス・真菌など病原体の知識、病原体の感染経路、身体への侵入・増殖、疾病を起こすメカニズムを理解している 2. 免疫機能と、免疫機能による身体の感染防御機能を理解している。 3. 感染症の診断・治療・予防の基本を理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>「からだの防御の仕組み」では、まず外部から体の中に侵入した物質を排除するために体に備わった力（免疫機構）について説明します。次に、体内に侵入し（感染）、病気（感染症）を引き起こす病原体について、細菌・ウイルス・真菌・原虫に分けて、それぞれの病原体の生命体としての特徴を説明します。続いて、感染が成立するメカニズムについて、宿主-病原体関係の視点から、感染源と感染経路、免疫機構との関係、発症するメカニズム、病態について解説します。さらに、感染症への対策として、検査・診断法、消毒する方法、予防する方法の基本を概説します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 イントロダクション・感染するということとは</p> <p>第2回 感染に対する防御機構 ①（自然免疫の機構）</p> <p>第3回 感染に対する防御機構 ②（獲得免疫の機構と臨床）</p> <p>第4回 微生物と微生物学、細菌の性質、細菌感染とその機構 ①</p> <p>第5回 細菌感染とその機構 ②、真菌の性質、真菌感染の機構、原虫の性質、原虫感染の機構</p> <p>第6回 ウイルスの性質、ウイルス感染の機構</p> <p>第7回 感染の徴候と症状、消毒と滅菌</p> <p>第8回 感染症の検査と診断・治療・現状と対策</p>			

定期試験
テキスト ・吉田 眞一『疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 第14版』医学書院
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介します。
学生に対する評価 ◆成績評価方法 成績評価は、授業への取り組み（出席状況、態度など）、レポートの提出状況（提出回数・記載内容など）、期末定期試験の成績を総合的に評価します。なお、出席率が3分の2（6回の出席）に足りない場合は期末定期試験を受験することができません。 ◆成績評価基準 成績評価基準は、授業に対する取り組みは10点満点、レポート提出状況25点満点、期末定期試験は65点満点で評価し、総計100点での評価を成績とします。レポートはA～Cの三段階で評価します。提出期日に遅れたときは点数×0.9で評価します。提出がない場合は0点です。期末定期試験の結果により、レポート提出状況の評価割合を上げ、期末定期試験の評価割合を下げます。

授業科目名： 薬理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 上野 正樹
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	「微生物学、免疫学、薬理概論」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>看護師、助産師、保健師、養護教諭を目指して学ぶ人にとって必要不可欠な知識である各種薬剤の作用機序と、体への効果、有害作用を習得する。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の体内の動態・代謝と薬物の投与経路、作用・副作用を理解している 2. 薬物の各薬理作用別に薬物の機能などを理解している 3. 薬剤それぞれの作用機序や臨床応用を理解している 			
<p>授業の概要</p> <p>「薬理学」総論では、薬物の投与経路、体内動態と代謝、作用・副作用・有害作用などについて解説します。各論では、抗感染症薬、抗腫瘍薬、抗炎症薬、免疫治療薬、神経作用薬、循環器作用薬、物質代謝作用薬などについて、各薬剤別に作用メカニズム、効果、有害作用、臨床での使用の実際などについて解説します。</p> <p>講義は対面授業を基本とします。感染状況により入構制限が行われたときならびに講師の勤務状況などで対面授業の実施がむつかしいときは、解説動画のオンデマンド配信のみの授業になります。出席登録は対面授業では学生証による出席登録システムで行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 イン트로ダクション（薬とその歴史）</p> <p>第2回 薬理学総論 ①（薬剤治療と看護師の役割・薬物動態学）</p> <p>第3回 薬理学総論 ②（薬力学・副反応・薬機法）</p> <p>第4回 薬理学各論 ①（抗感染症薬・抗がん薬）</p> <p>第5回 薬理学各論 ②（抗アレルギー薬・抗炎症薬・眼科治療薬等）</p> <p>第6回 薬理学各論 ③（中枢・末梢神経作用薬）</p> <p>第7回 薬理学各論 ④（循環器系作用薬）</p> <p>第8回 薬理学各論 ⑤（呼吸器系作用薬・消化器系作用薬等）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特定のテキストは指定しませんが、授業前日までに光華naviにて授業資料を提示します。</p>			

参考書・参考資料等

授業内で適宜紹介します。

学生に対する評価**◆成績評価方法**

成績評価は、授業への取り組み（出席状況、態度など）、レポート点、期末定期試験の点を合計して評価します。なお、出席率が3分の2（6回の出席）に足りない場合は定期試験を受験することができません。

◆成績評価基準

成績評価基準は、授業に対する取り組みは10点満点、レポート等の提出状況25点満点、期末定期試験は65点満点で評価し、総計100点での評価を成績とします。提出期日に遅れたときは点数×0.9で評価します。提出がない場合は0点です。

授業科目名： 精神看護学援助論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 篠田 紀一郎
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	精神保健		
授業のテーマ及び到達目標			
◆授業のテーマ			
精神看護学分野における対象者の理解と実践で求められる基本的知識を学修する。			
◆到達目標			
1. 精神看護学の基礎的知識や技術を理解している			
2. 精神障がいをもつ人に対する基本的な援助方法を理解している			
3. 精神科リハビリテーション活動、精神保健医療福祉の連携と支援の方法を理解している			
授業の概要			
精神看護学は人間の成長・発達段階に深く関わる領域であり、批判的思考や創造的視点から精神障害をもつ人を理解し、保健上の諸問題について支援する基本的な援助技術を学ぶ。			
授業計画			
第1回 精神症状と精神疾患			
・ガイダンス			
・グループワーク「ギャップの王様」			
第2回 統合失調症（急性期）患者の看護の実際			
第3回 統合失調症（慢性期）患者の看護の実際			
第4回 うつ病患者の看護の実際			
第5回 プロセスレコードと再構成			
第6回 摂食障害患者の看護の実際			
第7回 パーソナリティー障害患者の看護の実際			
第8回 まとめ			
定期試験			
テキスト			
・出口禎子、鷹野朋実『ナーシンググラフィカ精神看護学②精神障害と看護の実際』株式会社メディカ出版			
参考書・参考資料等			
授業内で適宜紹介します			
学生に対する評価			

◆成績評価方法

- 1.定期試験：60%
- 2.課題提出：40%

◆成績評価基準

- 1.定期試験：60%

- ・予習や授業で学んだ知識・理解度について記述式で出題して評価します。

- 2.課題：40%

- ・授業前の小テスト、講義終了時の小テストの入力を評価します。

- ・リフレクションシートの入力を評価します。

授業科目名： 精神看護学演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 篠田 紀一郎
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	精神保健		
授業のテーマ及び到達目標			
◆授業のテーマ			
精神疾患・障害を持つ人々に対して必要な看護を展開するための実践的な知識と技術を学ぶ。			
◆到達目標			
1. 精神障がいをもつ人の身体的・心理的アセスメント能力を習得している			
2. 精神障がいをもつ人に対する看護過程の展開方法を理解している			
3. 心の不健康・病気のと看、看護職として支援方法を理解している			
授業の概要			
精神看護学概論から精神看護学援助論までの学びを踏まえ、事例の看護過程の展開を行う。 ストレングスモデルを用いることで精神障がい者の生きる力や強みを捉えながら、オレム・アンダーウッド理論に基づいた看護過程のアセスメントに反映させる。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回・第3回：ストレングスモデル、ストレングスマッピング			
第4回・第5回：オレム・アンダーウッド理論、統合失調症急性期患者の事例展開（情報収集）			
第6回・第7回：統合失調症急性期患者の事例展開（アセスメント）			
第8回・第9回：統合失調症急性期患者の事例展開（計画立案）			
第10回・第11回：統合失調症慢性期患者の事例展開（情報収集）			
第12回・第13回：統合失調症慢性期患者の事例展開（アセスメント・計画立案）			
第14回・第15回：プロセスレコード、精神看護学実習に向けて			
※2講時連続授業のため、第2回以降は概要を2回ずつ記載しているが、それぞれの授業ではポイント解説の後、個人ワーク・ペアワーク・グループワークを行う。			
テキスト			
・萱間真美『ストレングスモデル 実践活用術』医学書院			
参考書・参考資料等			
授業内で適宜紹介する			
学生に対する評価			
◆成績評価方法			

*評価方法：以下の4つの取り組みをもって評価する。

①演習課題（80点）

②リフレクションシート（10点）

③個人/ペア/グループワーク（10点）

◆成績評価基準

*それぞれの評価の視点は以下の通り。

①演習課題

- ・課題提出物すべてが成績評価の対象
- ・期限までに提出されたか
- ・必要な情報・量を書いているか
- ・自分で考えた内容か
- ・疾患・治療の特徴や患者の個別性が反映されているか
- ・患者を尊重しているか
- ・ほかの人が読んでも理解できるものか
- ・丁寧な字か、適切な大きさ・濃さの文字で書かれているか

②リフレクションシート

- ・講義または演習の内容に即した内容が書かれているか

③個人/ペア/グループワーク

- ・目的や役割を意識して参加しているか
- ・時間を上手に使えているか
- ・主体的に取り組んでいるか

授業科目名： 日常生活を支える看護技術 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 徳永 基与子、西村 舞琴、 鈴木 沙恵、松山 洗斗 担当形態： 複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ 対象が安全に日常を送るための看護技術の基本を修得する</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践の技術を抽象化してとり出した共通基本技術を理解している 2. 日常生活行動を維持・発展させるために必要な看護技術を理解している 3. 看護技術修得過程の構造の意識化・技術修得能力を理解している 			
<p>授業の概要</p> <p>看護は諸科学を統合した温かく思いやりのある看護観に支えられ裏付けられた行動的实践であり、看護技術は看護観を看護の対象となる人々に適切に実践していくために必要となる。本科目では、看護技術の原理原則である安全・安楽・自立の安全に視点を置き、あらゆる看護実践に共通した基本技術である患者の安全を保持する観察技術修得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習内容のオリエンテーション【シラバス】(徳永、西村、鈴木、松山)授業概要と学習支援ツールの活用</p> <p>第2回：学び方のガイダンス【教本p8-27】(徳永、西村) 学習進行のマップ、学びのデザイン(教員や教本の役割)、効果的な学び方(学習者の役割)</p> <p>第3回:「急変させない患者観察のテクニック」の背景となる知識1【教本p30-45】(徳永、西村、鈴木、松山)患者の急変はなぜ起こるのか</p> <p>第4回:「急変させない患者観察のテクニック」の背景となる知識2【教本p30-45】(徳永、西村、鈴木、松山)人の認知の特性</p> <p>第5回:「急変させない患者観察のテクニック」の背景となる知識3【教本p46-63】(徳永、西村、鈴木、松山)心停止マップと患者の変化 その1</p> <p>第6回:「急変させない患者観察のテクニック」の背景となる知識3【教本p46-63】(徳永、西村、鈴木、松山)心停止マップと患者の変化 その2</p> <p>第7回:「急変させない患者観察のテクニック」の背景となる知識4【教本p46-63】(徳永、西村、鈴木、松山)問題解決技能、急変させないためのトレーニング</p>			

- 第8回:事例で学ぶ「急変させない患者観察テクニック」1【教本p66-84】(徳永、西村、鈴木、松山)実際に患者さんを受け持って考える：頭を整える1
- 第9回:事例で学ぶ「急変させない患者観察テクニック」2【教本p66-84】(徳永、西村、鈴木、松山)実際に患者さんを受け持って考える：頭を整える2
- 第10回:事例で学ぶ「急変させない患者観察テクニック」3【教本p85-97】(徳永、西村、鈴木、松山)実際に患者さんを受け持って考える：患者のところに行ったら
- 第11回:事例で学ぶ「急変させない患者観察テクニック」4【教本p85-97】(徳永、西村、鈴木、松山)実際に患者さんを受け持って考える：患者に接したら
- 第12回:「急変させない患者観察のテクニック」のツール1【教本p100-114】(徳永、西村、鈴木、松山)「急変させない患者観察のテクニック」というプログラム、知識カードとその使い方 1：頭を整えるためのカード
- 第13回:「急変させない患者観察のテクニック」のツール2【教本p114-120】(徳永、西村、鈴木、松山)知識カードとその使い方 2：「患者のところに行くとき」「患者に接するとき」に使うカード
- 第14回:「急変させない患者観察のテクニック」のツール3【教本p120-128】(徳永、西村、鈴木、松山)知識カードとその使い方 3：「選択した看護を実践する」ためのカード
- 第15回:「急変させない患者観察のテクニック」のツール4【教本p128-132】(徳永、西村、鈴木、松山)知識カードとその使い方 4「看護記録」のために活用 するカード、振り返りで活用するカード

テキスト

- ・池上敬一『看護学生・若手看護師のための急変させない患者観察テクニック』羊土社
- ・深井喜代子『基礎看護学3 基礎看護技術2 5版』メヂカルフレンド社

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

◆成績評価方法

- ①事前・事後課題の提出 20点
- ② 事前クイズ 30点
- ③ グループ学習状況 20点
- ④ 事後クイズ 30点

以上を100点満点で評価します。

◆成績評価基準

- ①事前・事後課題：レポート（文章の課題）：A:事実をもとに自分の考え・意見の記載がある
B:自分の意見・考えのみを記載できる C:感想にとどまる、以上の3段階で評価する。なお

締め切りを遅れて提出した場合は、やむを得ない理由以外は0点とする。期日までの提出物を評価対象とする。（期限外の提出は原則評価対象外。ただし、やむおえない理由の場合は考慮する）

②前提テスト：前回までの内容の理解度の確認なので素点を成績に加味する。

事前クイズ：次の授業で取り扱う内容の予習に相当するため、期限内に受験すれば満点で成績に加味。期限外の受験及び未受験は0点

③動画視聴：視聴履歴で100%視聴を満点、それ以外は0点として評価する。

④事後クイズ：授業内の内容の理解度の確認。素点を成績に加味する

⑤グループ学習状況：参加状況で60%、役割担当により加点する方式。

授業科目名： 日常生活を支える看護技術Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 徳永 基与子、西村 舞琴、 鈴木 沙恵、松山 洗斗 担当形態： 複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>看護技術および共通基本技術の習得、技術修得過程の構造の意識化をはかり、技術修得をめざす。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身が患者・看護師となり、共通する共通基本技術を習得している 2. 日常生活行動を維持・発展させるために必要な看護技術を修得している 3. 看護場面の自己・他者評価を通して自己評価能力を向上している 			
<p>授業の概要</p> <p>日常生活行動を維持・発展させるために必要な看護技術の学習を進める。この科目は、前期開講された「日常生活を支える援助技術Ⅰ」の習得を前提に進行する、日常生活を支える看護技術の基本行動の習得のみならず、事例ベースの模擬患者に技術の対提の判断・提供後の効果の判断する思考過程の基本の習得も進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>1回：オリエンテーション ＊資料は別途準備 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]</p> <p>2回：「日常生活を支える看護技術Ⅰ」の復習 ＊資料は別途準備 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]</p> <p>3回：体位変換・ベッド上移動（基本行動の理解：グループ単位）【メヂカルフレンド教本p118-130 医学書院教本p154-173】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]</p> <p>4回：体位変換・ベッド上移動（基本行動の習得：個人単位）【メヂカルフレンド教本p118-130 医学書院教本p154-173】 担当：徳永、西村、鈴木、松山]</p> <p>5回：事例ベースの体位変換・ベッド上移動の技術の展開（グループ）【メヂカルフレンド教本p118-130 医学書院教本p154-173】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]</p> <p>6回：事例ベースの体位変換・ベッド上移動の技術の展開：クラス全体）【メヂカルフレンド教本p118-130 医学書院教本p154-173】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]</p> <p>7回：移乗・移送の技術（基本行動の理解：グループ単位【メヂカルフレンド教本p129-135 医学書院教本p181-200】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]</p>			

- 8回：移乗・移送の技術（基本行動の習得：個人単位）【メヂカルフレンド教本p129-135 医学書院教本p181-200】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 9回：事例ベースの移乗・移送の技術の展開（グループ）【メヂカルフレンド教本p129-135 医学書院教本p181-200】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 10回：事例ベースの移乗・移送の技術の展開（クラス全体で共有）【メヂカルフレンド教本p129-135 医学書院教本p181-200】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 11回：シーツ交換の技術（基本行動の理解：グループ単位）【メヂカルフレンド教本p12-20 医学書院教本p2-13】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 12回：シーツ交換の技術（基本行動の習得：個人）【メヂカルフレンド教本p12-20 医学書院教本p2-13】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 13回：事例ベースのシーツ交換の技術の展開（グループ）【メヂカルフレンド教本p12-20 医学書院教本p2-13】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 14回：事例ベースのシーツ交換の技術の展開（クラス全体で共有）【メヂカルフレンド教本p12-20 医学書院教本p2-13】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 15回：寝衣交換の技術（基本行動の理解：グループ単位）【メヂカルフレンド教本p185-190 医学書院教本p255-272】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 16回：寝衣交換の技術（基本行動の習得：個人）【メヂカルフレンド教本p185-190 医学書院教本p255-272】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 17回：事例ベースの寝衣交換の技術の展開（グループ）【メヂカルフレンド教本p185-190 医学書院教本p255-272】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 18回：事例ベースの寝衣交換の技術の展開（クラス全体で共有）【メヂカルフレンド教本p185-190 医学書院教本p255-272】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 19回：清潔を整える技術：部分清拭（基本行動の理解：グループ単位）【メヂカルフレンド教本p168-172 医学書院教本 p255-272】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 20回：清潔を整える技術：部分清拭（基本行動の習得：個人単位）【メヂカルフレンド教本p168-172 医学書院教本 p255-272】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 21回：事例ベースの部分清拭の技術の展開（グループ）【メヂカルフレンド教本p168-172 医学書院教本 p255-272】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 22回：事例ベースの部分清拭の技術の展開（クラス全体で共有）【メヂカルフレンド教本p168-172 医学書院教本 p255-272】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 23回：清潔を整える技術：足浴・口腔内清掃{基本行動の理解：グループ}【メヂカルフレンド教本p163-165,177-180 医学書院教本p297-303】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 24回：清潔を整える技術：足浴・口腔内清掃（基本行動の習得：個人）【メヂカルフレンド教本p163-165,177-180 医学書院教本p297-303】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
- 25回：事例ベースの足浴の技術の展開（グループ）【メヂカルフレンド教本p163-165,177-

180 医学書院教本p297-303】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
 26回：事例ベースの足浴の技術の展開（クラス全体で共有）【メヂカルフレンド教本p163-165,177-180 医学書院教本p297-303】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
 27回：排泄の援助：陰部洗浄・おむつ交換（基本行動の理解：グループ）【メヂカルフレンド教本p166-168,71-72 医学書院教本p273-283,105-109】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
 28回：排泄の援助：陰部洗浄・おむつ交換（基本行動の習得：個人）【メヂカルフレンド教本p166-168,71-72 医学書院教本p273-283,105-109】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
 29回：事例ベースの陰部洗浄・おむつ交換（技術の展開（グループ））【メヂカルフレンド教本p166-168,71-72 医学書院教本p273-283,105-109】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]
 30回：事例ベースの陰部洗浄・おむつ交換（技術の展開（クラス全体））【メヂカルフレンド教本p166-168,71-72 医学書院教本p273-283,105-109】 [担当：徳永、西村、鈴木、松山]

テキスト

・任 和子『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術第3版』医学書院

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

◆成績評価方法

- ①事前・事後課題の実施 40点
- ②グループワークの参加状況 20点
- ③対象技術(4つ)の動画による技術チェック 40点

以上を100点満点で評価します。

◆成績評価基準

- ①事前・事後課題：レポート（文章の課題）：A:事実をもとに自分の考え・意見の記載がある
 B:自分の意見・考えのみを記載できる C:感想にとどまる、以上の3段階で評価する。

なお締め切りを遅れて提出した場合は、やむを得ない理由以外は0点とする。期日までの提出物を評価対象とする。（期限外の提出は原則評価対象外。ただし、やむをえない理由の場合は考慮する）

動画：視聴履歴で100%視聴を満点、それ以外は0点として評価する。

- ②グループワークの参加状況：参加し、枠時の書類の提出状況で評価する。

- ③動画による技術チェック：別途配布する技術チェック表に沿って評価。期限までに提出できない動画は評価対象外とする。

授業科目名： 小児看護学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 荃津 智子
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>小児看護学に関連する主要な理念、概念および子どもの発達の特徴の基本を学ぶ</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護実践のための子どもの成長・発達について理解している 2. 小児医療と子どもの権利の関連を理解している 3. 現代社会に生きる子どもと家族の健康問題を理解している 			
<p>授業の概要</p> <p>小児看護を実践するための必要な理念や概念として子どもの権利、発達論、アタッチメント論などについて学ぶ</p> <p>また、現代社会において子どもを取り巻く健康に関連する状況は、子どもの生活習慣病、一方ではやせの問題、さらには現在も増大の一途をたどっている児童虐待や子どもの心の問題などさまざま健康課題がある。それらについても理解を深めるとともに看護の果たす役割も増大していることを理解し、看護職として何ができるのかを考える機会とする。</p> <p>それらの課題を考えるためにも子どもの心身の発達や子どもにとっての家族の意味について学び、子どもとその家族への健康の増進、維持、回復に向けた支援について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：小児看護とは、子どもとは</p> <p>第2回：子どもの発達、生活と子どもの権利</p> <p>第3回：小児看護における発達理論、発達の原則</p> <p>第4回：乳幼児期の発達（乳児期）</p> <p>第5回：乳幼児期の発達（幼児期）</p> <p>第6回：乳幼児期の生活（子どもの栄養・食生活）</p> <p>第7回：子どもの基本的生活習慣の確立と自立</p> <p>第8回：学童期・思春期の発達</p> <p>第9回：子どもの発達評価</p> <p>第10回：発達に関する中間テスト</p> <p>第11回：現代社会に生きる子どもと家族の健康問題</p>			

第12回：小児看護と倫理

第13回：特別講師（子どもの支援に関連する特別講話）

第14回：小児保健と保健施策（健やか親子21、小児保健・母子保健施策の概要）

第15回：子どもの感染症と予防接種、まとめ

定期試験

テキスト

・荃津 智子『NURSING TEXTBOOKSERIES 小児看護学Ⅰ子どもの健康と成長・発達』
医歯薬出版

・守口 絵里『NURSING TEXTBOOKSERIES 小児看護学Ⅱ子どもへのケア技術と看護過程』医歯薬出版

参考書・参考資料等

授業内で都度指示する。

学生に対する評価

◆成績評価方法

下記の割合で課題、試験を評価し総合評価で60点以上が合格となる

レポート課題（3件）：子どもの権利に関すること5%、特別講師のリフレクションペーパー5%、文献レポート20%、発達中間テスト：30%、最終定期テスト：40%

◆成績評価基準

- ・課題3件：指定された課題の内容が適切にまとめられている
- ・発達中間テスト：発達に関する基礎知識、理解の確認
- ・定期試験：概論授業全体（発達も含む）に関する基礎知識の理解の確認
- ・出題形式は、いずれのテストも選択式、記述式などで構成される。

授業科目名： フィジカルアセスメント演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 西村 舞琴、鈴木 沙恵、松山 洗斗
			担当形態： 複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>対象の身体的状態について、系統的に主観的・客観的情報を得て、対象の健康状態を判断する基本技術を演習を通じて学ぶ。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントにおけるフィジカルアセスメントの位置と目的を理解している 2. 問診、触診、聴診、バイタルサインなどフィジカルアセスメントの基本的診査技術ができる 3. 得られた情報の適切な判断、評価、看護援助への活用ができる 			
<p>授業の概要</p> <p>フィジカルアセスメントの演習を通して、看護実践において重要な観察技術、バイタルサイン及び基本的なフィジカルアセスメントの手法（問診・打診・聴診・視診・触診）を習得する。また、対象の状況や対象のおかれた環境についてアセスメントしていくために、必要となる対象者の身体的・心理的・社会的な情報を適切に判断し、発達状況に応じたフィジカルアセスメントの知識と技術の修得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 演習のオリエンテーション 2) 発達的特徴の理解及び発達段階に応じた身体的・心理的・社会的な情報収集方法の実際－技術演習 3) 発達的特徴の理解及び発達段階に応じた身体的・心理的・社会的な情報収集方法の実際－グループワーク（役割の交代） 4) 看護実践において総合的に重要な観察技術：バイタルサインの実際－技術演習 5) 看護実践において総合的に重要な観察技術：バイタルサインの実際－グループワーク（役割の交代） 6) 看護実践において重要な観察技術：問診（インタビュー）・打診・聴診・視診・触診の実際－技術演習 7) 看護実践において重要な観察技術：問診（インタビュー）・打診・聴診・視診・触診の実際 			

際－グループワーク（役割の交代）

8) 消化・吸収・栄養・排泄機能のフィジカルアセスメントの実際－技術演習

9) 消化・吸収・栄養・排泄機能のフィジカルアセスメントの実際－グループワーク（役割の交代）

10) 循環機能のフィジカルアセスメントの実際－技術演習

11) 循環機能のフィジカルアセスメントの実際－グループワーク（役割の交代）

12) 呼吸機能のフィジカルアセスメントの実際－技術演習

13) 呼吸機能のフィジカルアセスメントの実際－グループワーク（役割の交代）

14) フィジカルアセスメントの全体像のつかみ方

15) 模擬患者演習 訪室・観察・報告まで

テキスト

演習科目のため指定しないが、フィジカルアセスメント概論のテキスト※下記参考書欄参照を読み参加すること。

参考書・参考資料等

・医療情報科学研究所編集『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』メディックメディア

学生に対する評価

◆成績評価方法

- 1) 履修は授業に出席して、所定の課題・テストを受けることが必要である。
- 2) 授業時間数の2/3以上の出席を成績評価の対象とする。
- 3) 成績評価基準について

事前・事後課題・授業中の課題の点数（30点）最終テストの点数（30点）

実技テスト（40点）

◆成績評価基準

- 1) 解剖生理学で学んだフィジカルの知識を事前に復習したうえで授業に臨む。
 - 2) 毎回授業した内容はフィジカルアセスメント概論と連動するため、授業内容に応じて概論の課題と繋ぐ。
 - 3) 演習する際に講義で学んだことを活用し、実践に必要な技術を身につける。
- ・演習記録の評価について、演習内容をよく理解し、要点を抑えてまとめられているか評価する。

授業科目名： 小児看護学実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 荃津 智子、守口 絵里
			担当形態： 複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>講義で学んだ知識や技術を統合し、子どもの成長発達や健康状態をふまえた看護を実践する。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長発達を理解し、観察、分析、評価できる。子どもの成長発達に応じた、子どもの健康問題の解決法について考えられる 2. 子どもと家族の健康問題（ニーズ）を認識し、分析、実践、評価できる。必要な社会資源を理解するとともに、保健医療メンバーとしての役割を理解している 3. 子どもや家族との対人関係における自己の気質を考え、今後の深めるべき自己の課題を明らかにすることができる 			
<p>授業の概要</p> <p>保育施設において健康な子どもの成長発達やコミュニケーション方法を理解したうえで、健康障害により病院に入院している子どもとその家族を統合的にとらえた看護を実践する。具体的には、子どもとその家族と良好な関係性を築くコミュニケーション能力、子どもとその家族のニーズを捉える能力、子どもとその家族の人権を擁護する看護師としての基本的な態度を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 2025年9月～2026年3月 2. 実習単位 2単位（90時間） 45時間を保育施設（保育園・幼稚園）、45時間を病院施設において実習を行う 3. 実習施設 ＜保育施設＞ 担当：荃津・守口 ①光華幼稚園 ②さつき保育園 ③自然幼稚園 			

<病院施設> 担当：荃津・守口

- ①医仁会武田総合病院
- ②京都市立病院
- ③京都桂病院

その他詳細は実習要項を参照

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

小児看護学概論、小児看護学援助論、小児看護学演習で使用したテキスト・参考書・授業資料をもう一度参照しておくこと

学生に対する評価

◆成績評価方法

事前学習、技術チェック、実習態度、記録物、出席状況、実習指導者からの情報等をもとに、実習目標に沿って総合的に評価する。評価項目等については実習要項を参照。

◆成績評価基準

保育実習 : 15点

チェックテスト : 5点

病棟実習 : 80点

これらを総合し、60点以上をもって合格とする。

授業科目名： 急性期看護学実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 3単位	担当教員名：炭本 佑佳、 岡本 華枝、金丸 恭子、 前川 瑞季
			担当形態： 複数
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
◆授業のテーマ			
<p>臨地において、心身の状態が急激に変化する周手術期～急性期の対象者の特徴を理解し、手術侵襲による術後合併症の予防と早期発見に加え、身体機能や形態の変化に伴い必要となる看護を実践する。</p>			
◆到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術侵襲や急激な病気の発症にみまわれた生体は、その侵襲の程度や生体反応のバランスによって回復過程が左右されることを理解している 2. 急性期にある対象のニーズをと特徴的な急性状態にある患者の看護を展開できる 3. 対象の生命力を引き出し、回復を促進する実践的な看護援助の方法を理解できる 			
授業の概要			
<p>既習の知識・技術を基礎として、健康問題を持つ成人期にある対象を総合的に理解し、健康の状況（急性期、周手術期）に応じた看護が対象およびその家族に実践できるための必要な能力を養う。</p>			
〔到達目標〕			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人各期の特徴から、健康問題をもつ対象とその家族の状況を総合的に捉えられる。 2. 対象に生じている疾病や行われている治療が生活に及ぼす影響をアセスメントし、健康問題とその優先順位を判断できる。 3. 健康問題の解決に向け、対象や家族と情報や目標を共有しながら具体的な看護計画を立案できる。 4. 対象の健康・回復・発達段階に応じた適切で安全な看護を実践し、評価できる。 5. 保健医療チームにおける看護の役割を理解し、多職種と連携を保ちながら看護が実践できる。 6. 看護を探究する姿勢と研究的な態度を養うと共に、看護者として人間性・倫理性を高めることができる。 			
授業計画			
1. 実習期間			

9月～翌年3月

月曜日～金曜日の3週間（120時間）

2. 実習施設

手術室、ICU等の施設を有する急性期病院

3. 実習にあたっての心構え

実習病院で同意の得られた周手術期の患者を1名受けもち、指導のもとに問題解決に向けた必要な看護を展開する。

その日行った実習内容で何に気づいたか、学習したかを明確にするため、毎日の実習終了後、実習記録を作成する必要がある。同時に次の日の実習目標や行動計画を考えた行動計画の作成が求められる。実習では教員や病棟スタッフの指導のもとに、受けもち患者の看護を実践する事になるが、実施に際し、立案した看護計画の適切・安全・個別性の査定目的で、病棟スタッフを交えたケースカンファレンス内で発表することになる。指導を受けるための準備学習や情報整理、初期計画の立案作成は実習時間外での自己学習となる。

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

成人看護学概論、成人看護学援助論、成人看護学演習で使用したテキスト・参考書・授業資料をもう一度確認しておくこと

学生に対する評価

◆成績評価方法

実習の出席状況、看護過程の展開状況など評価表に基づいて評価する。

実習目標到達度、実習記録内容と提出状況、出席状況、実習態度によって総合的に評価する。

原則として、欠席や遅刻は認めない。

◆成績評価基準

実習評価表の項目、基準で評価する。

授業科目名： 精神看護学実習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠田 紀一郎
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>精神疾患・障害を持つ対象者とのかかわりを通して、その人が抱えている困難を理解し、健康回復に向けた必要な看護を実践するための基礎的な能力を養う。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オレム・アンダーウッド理論を用いて対象者の理解を深め、必要な看護援助方法を把握し実践する 2. 対象者及びその家族の心理・社会的発達課題を捉え、治療的な相互関係を構築できる 3. 対象者及びその家族が利用できる精神保健・医療・福祉に関連する社会資源を考えることができる 			
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者に関心を持ち、その人が抱えている困難や体験している生きづらさを生活上の文脈から理解しようとすることができる。 2. 対象者の個別性を考慮した看護計画の立案および実践・評価ができる。 3. 対象者とのかかわりをプロセスレコードで振り返り、自己を洞察し、コミュニケーションにおける相互作用について考えることができる。 4. 精神疾患・障害を持つ人々の地域での生活や福祉サービス、リハビリテーションの実際について理解を深めるとともに、回復支援にかかわる人々の連携について考えることができる。 5. 精神疾患・障害を持つ人々の人権の尊重および人権擁護のあり方や重要性について考え、自分自身の考えを持つことができる。 <p>*本科目の目標（詳細は『精神看護学実習要項』にて要確認）</p>			
<p>授業計画</p> <p>*実習期間：月～金曜日の2週間（90時間）</p> <p>*実習場所：精神科病院および精神科デイケア、福祉サービス事業所</p> <p>*実習内容の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科病院 <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションなどを通して、精神科病院および閉鎖／開放病棟の特徴について知る。 			

- ・日々のかかわりや観察、カルテから得た情報などをもとにアセスメントを行い、対象理解を深め、看護の方向性・計画を検討する。
- ・立案した計画を受け持ち患者と共有し、看護を実践する。
- ・プロセスレコードなどを通し、対象理解とともに自己理解を深める。
- ・作業療法や病棟レクリエーション、精神科デイケアの参加を実習病院の状況に応じて行う。

2) 福祉サービス事業所

- ・障害者福祉サービスにかかわる様々な職種の役割および連携について知る。
- ・利用者とともに行われているプログラムや作業に参加し、疾患や障害を持ちながら地域で生活する上での工夫や社会資源の実際について知る。

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

精神看護学概論、精神看護学援助論、精神看護学演習で使用したテキスト・参考書・授業資料をもう一度確認しておくこと

学生に対する評価

◆成績評価方法

『精神看護学実習要項』の「IX.実習評価表」に詳細を提示（要確認）。

ただし、実習時間の1/5を超えて不参加の場合は、評価対象から除外。

◆成績評価基準

『精神看護学実習要項』の「IX.実習評価表」に詳細を提示（要確認）。

授業科目名： 地域看護学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 田淵 紗也香
			担当形態： 単独
科 目	養護に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>◆授業のテーマ</p> <p>地域で生活している人々の健康課題に対応した地域看護活動の基礎を理解する。</p> <p>◆到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護の考え方と主要な理論を理解している 2. 地域看護活動の対象と場、方法を理解している 3. 地域看護の継続性と包括性を理解している 			
<p>授業の概要</p> <p>多様な場で生活する、様々な健康レベルにある人々を生活者の視点でとらえ、①人々の生活の質、②包括性、③継続性の視点を重視した看護活動を実践するための看護職に共通して求められる地域看護の基礎的能力を養う。行政、産業、学校などの場を踏まえたヘルスプロモーションの展開方法を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 地域看護の理念と主要概念（健康、予防、プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション）</p> <p>第2回 地域看護の歴史と健康課題の変遷</p> <p>第3回 医療経済と保健活動、衛生行政制度</p> <p>第4回 地域看護の対象と活動の場（行政・産業・学校他）</p> <p>第5回 保健所や市町村における保健活動の実際</p> <p>第6回 地域看護活動の方法（保健指導・家庭訪問と健康教育他）</p> <p>第7回 社会環境の変化と健康課題</p> <p>第8回 事例で考える地域における看護の連携体制の構築</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>・鳩野洋子『公衆衛生看護学.jp 第6版』インターメディカル</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>・『国民衛生の動向 2024/2025』厚生労働統計協会</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

◆成績評価方法

授業中の態度や課題への取り組み（40%）及び定期試験中の筆記試験（60%）により評価する。

◆成績評価基準

授業中の態度：積極的な発言や意見などにより評価する。

課題：指定されたテーマについて、授業内容をよく理解して、要点をおさえているか評価する。

定期試験：授業で学んだ知識・理解度を問う問題を出題する。